



LAN・デ・ブート
ミニ

RPC-4XL

取扱説明書

mini
LAN
deBOOT
REMOTE POWER CONTROLLER



明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

LAN・デ・ブート ミニ R P C -4XL をご購入いただき誠にありがとうございます。

LAN・デ・ブート ミニ R P C -4XL はネットワーク経由でシステム機器の制御 / 管理をする電源制御装置です。4 個の 100VAC 電源を個別に遠隔制御 / 管理でき、またケーブル接続された無停電電源装置 (UPS) をネットワーク経由で管理することもできます。また NTP サーバーに接続することにより、週間スケジューラーとしてもご利用になります。

LAN・デ・ブート ミニが皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください。

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。ご使用前に、必ず本書をお読みください。お読み終わった後も大切に保管してください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. 取扱説明書	1 部
2. CD-ROM	1 枚
内 容	・ 取扱説明書 (PDF ファイル)	
	・ 設定ユーティリティソフト・インストールファイル	
	・ 制御ユーティリティソフト・インストールファイル	
	・ ネットワーク稼動監視ソフト・インストールファイル	
	・ Acrobat Reader インストールファイル	
	・ プライベート MIB ファイル	
	・ P Tシャットダウン・インストールファイル	
	・ ツールソフト (tncom)	
3. 保証書	1 部
4. RS232C (クロス) ケーブル	1 本
5. 2P/3P 変換プラグ	1 個

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 分解・改造禁止	⊙は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は⊙の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
 電源プラグを抜く	は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。



電源プラグを抜く

AC 100V (50または60Hz) 以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧 (交流 100V) 以外の電圧で使用しないでください。特に 110V を越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。



交流 100V

本装置の電源アースあるいはF G端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはF G端子を接地してください。感電や故障の原因となります。



アース接地

本装置背面のACコンセントは15Aまで

本装置背面のACコンセントは、供給できる容量の合計は最大で15Aです。合計15Aを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。



最大容量 15A まで

たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。本装置のACコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。



たこ足配線禁止

電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



コードを乱暴に扱わない

極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置はパソコン及びパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。



パソコン機器専用

警告

ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。感電の原因となることがあります。



ぬれた手でさわらない

本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災、感電、故障などの原因になります。



液体を近くに置かない

異物を入れない

製品の通気孔などに、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。



内部に異物を入れない

ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない
スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。



可燃物禁止

雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、F G端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。



雷のときは、触らない

分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。



分解・改造禁止

製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、背面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。



電源プラグを抜く

注意

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。



コードを引っ張らない

通気孔をふさがない

製品には、内部の温度上昇を防ぐために通気孔が開けられています。壁際の設置は、通気孔から5 cm以上離してください。通気孔から5 cm以内に、物などを置かないでください。内部に熱がこもり、やけどや火災の原因となることがあります。



通気孔をふさがない

風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。



風通しの悪い場所禁止

温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど、高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。



温度が高い場所禁止

お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください(絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください)。薬品類(ベンジン・シンナーなど)は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き、本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行ってください。感電や故障の原因となることがあります。



電源プラグを抜く

湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。



湿気・ほこり禁止

注意

逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。



逆さま禁止

電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだまましていると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けると、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。



定期点検

本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。



国内のみ使用

不安定な場所やお子様手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。



不安定な場所禁止

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。



ラジオ、テレビの近く禁止

データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。



バックアップ

花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。



上にものを置かない

踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。



踏み台禁止

目次

第 1 章	はじめに	9
	1. 機能概要	
	2. 接続可能な無停電電源装置 (UPS)	
	3. 各部の名称と機能	
	4. DIP スイッチの設定	
	5. LED 表示について	
第 2 章	設置・取り付け	15
	1. デスクトップへの設置	
	2. ラックへの取り付け	
	3. 固定方法	
第 3 章	初期設定	17
	1. ユーティリティによる設定	
	2. ターミナルソフトによる設定	
	シリアル通信のコマンド	
	3. TELNET による設定	
	TELNET 通信のコマンド	
	「&SAVE」コマンドについて	
	プロンプトやコマンドについて	
	4. LAN からの IP アドレス設定	
第 4 章	機能設定	29
	1. ログイン	
	2. ログアウト処理	
	3. ボタン仕様	
	4. 機器設定	
	5. ネットワーク設定	
	6. セキュリティ設定	
	7. 監視設定	
	8. Wakeup 設定	
第 5 章	機器の電源制御	43
	1. Web ブラウザによる制御	
	2. TELNET 接続による制御	
	制御コマンド一覧表	
	3. モバイル端末からの制御	
	4. i-MODE 端末からの制御	
	5. シリアルからの制御	
	6. モデムからの制御	

第 6 章	制御ユーティリティ	55
	1. お使いの前に	
	2. 接続	
	3. 制御と設定	
	4. ポーリング	
	5. コールバック	
	6. メールからのコマンド	
	7. キーファイル	
第 7 章	シャットダウン	75
	1. シャットダウンについて	
	2. 接続	
	3. 本機の設定	
	4. パソコンの設定	
第 8 章	ロギング機能	77
	1. ロギング機能の設定・表示	
	ログ制御変数のビット構成	
	ログ表示コマンド	
	ログの表示形式	
	記録ログ一覧表	
第 9 章	無停電電源装置 (UPS) との連携	81
	1. 本機と無停電電源装置 (UPS) の接続	
	2. Web ブラウザによる設定	
第 10 章	システム情報	85
	1. システム情報について	
第 11 章	SNMP の使用	89
	1. SNMP について	
	2. MIB について	
第 12 章	ネットワーク稼動監視	91
	1. お使いになる前に	
	2. 使用方法	
	3. プログラムのための情報	
第 13 章	ネットワーク稼動監視	97
	1. PPPoE について	
	2. 設定について	
	3. 制御について	
	4. 動作について	
第 14 章	仕様一覧	103

第 1 章 はじめに

1. 機能概要

本機には以下の機能があります。

- 1) 4 個の 100 V A C 電源を個別に制御/管理
- 2) 通信による電源制御
 - ・ WEB からの電源制御と設定 (I-mode 可。PROXY 経由不可)
 - ・ TELNET からの電源制御と設定
 - ・ 専用ソフト (暗号化) からの電源制御と設定
 - ・ PPPoE クライアントとしての接続に対応
 - ・ シリアル (COM) からの電源制御と設定
- 3) スケジュールによる制御
 - ・ 週間スケジュールによる電源制御
- 4) センター通知機能
 - ・ 電源状態と死活監視状態をセンターへ通知
- 5) 通信中継機能
 - ・ TELNET クライアント、シリアルコンソールとして通信
- 6) 各デバイスへの遅延電源投入
 - ・ 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動
- 7) 無停電電源装置 (UPS) との連携によるシャットダウン処理
- 8) Ping による死活監視
- 9) MAGICPACKET による起動
- 10) メールによる制御や通知
- 11) 通信による遠隔バージョンアップ

2. 接続可能な無停電電源装置 (UPS)

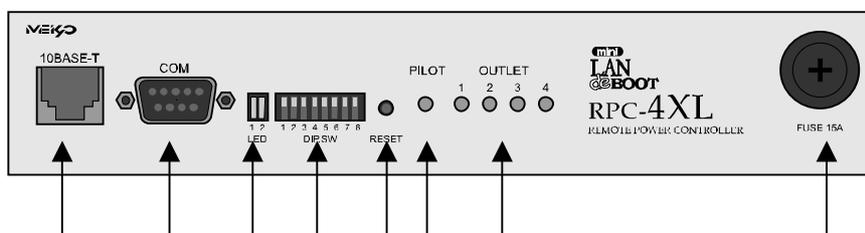
接点通信式無停電電源装置 (UPS) が接続できます。

- ・ Windows NT/2000/XP などの標準 UPS サービスに対応している必要があります。

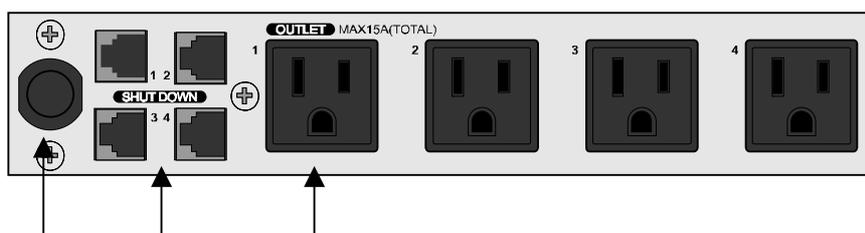
UPS の設定は、添付の設定ユーティリティ (初期設定時) または Web コントロールプログラム (機能設定時) のどちらからでもできます。

3. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



10BASE-T	LAN ケーブル (8 ピン RJ45) を接続します。
COM	初期設定用及び UPS 及びモデム・シリアル接続用通信ポートとして使用します。
LED	CPU の通信状態を表示します。
DIP スイッチ	初期設定、本体設定に使用します。
RESET スイッチ	出力電源に影響を与えずに CPU を初期化します。
PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
OUTLET LED	AC アウトレットの電源出力状態を表示します。
FUSE	ガラス管ヒューズ 15A を使用します。
電源コード	商用電源、UPS などに接続します。
シャットダウン I/F	シャットダウンケーブル (別売) を接続します。
AC アウトレット	デバイスの電源コードを接続します。

4. DIP スイッチの設定

注意 DIP スイッチを操作するときは、本体の AC アウトレットから全デバイスを取り外してください。
DIP スイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面の RESET スイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

DIP スイッチの機能 (OFFは「上」、ONは「下」を意味します。)

NO.	状態	モード
1	OFF	シリアル・モデム運転モード
	ON	UPS (接点信号式) 運転モード
2	OFF	OFF に固定
	ON	未使用
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード (初期設定)
4	未使用	常に上 (OFF)
5	未使用	常に上 (OFF)
6	未使用	常に上 (OFF)
7	未使用	常に上 (OFF)
8	未使用	常に上 (OFF)

DIP スイッチの設定

		1	2	3	4	5	6	7	8
初期設定時	OFF								
	ON								
通常運転時	OFF								
	ON								
モデム接続時	OFF								
	ON								
接点通信式 UPS 接続時	OFF								
	ON								

5. LED表示について

本体には3種類のLEDが装備されています。

1) LED

CPUの通信状態を表示します。

NO.	用途	状態	表示
1	TCP/IP通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯
2	CPU状態	ケーブル抜け PPPoE接続、通常状態 PPPoE接続、障害または復旧中 その他の状態	0.25秒点灯、0.25秒消灯 2秒点灯、0.5秒消灯 0.5秒点灯、0.5秒消灯 1秒点灯、1秒消灯

2) PILOT LED

本体に電源投入されている場合に点灯します。

3) OUTLET LED

ACアウトレットの電源出力状態を表示します。

ONの場合 : 点灯

OFFの場合 : 消灯

第 2 章 設置・取り付け

1. デスクトップへの設置

以下の手順で設置します。

- 1) 本体を設置場所に置きます。
設置場所は、単相 100VAC / 15A 以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグやコネクタが、差し込める位置であることを確認します。
- 2) 本体前面の 10BASE-T に LAN ケーブルを接続します。
- 3) 本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意 本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

- 1) ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。
- 2) ラック・キャビネットに本機を設置します。
- 3) 本体前面 10BASE-T に LAN ケーブルを接続します。
- 4) 電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本機固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴（4箇所）を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、M 3 × 8 L (MAX) をご利用ください。

第 3 章 初期設定

初期設定は、付属の設定ユーティリティソフト（Windows用）を利用します。

1. ユーティリティによる設定

設定ユーティリティソフトのインストール手順は添付CDのREADME.txtを参照してください。設定用PCと本機とは、付属RS232C(クロス)ケーブルで接続します。設定ユーティリティソフトはWindows対応ソフトです。それ以外の端末から設定する場合は、コンソールプログラムを利用して直接コマンド入力します。

- 1) 本体前面のDIPスイッチ.3をON(下)にします。
- 2) 本体前面のRESETスイッチを押します。
- 3) 設定ユーティリティソフトを起動します。パスワード画面が表示されます。パスワード「magic」(デフォルト)を入力し、COMポートを選択します。

パスワード画面



- 4) 「接続」ボタンをクリックします。基本設定画面が表示されます。

基本設定画面



5) 基本設定をします。

TCP/IPネットワーク設定

本機のネットワークに関する設定をします。

IPアドレス	デフォルト	:	192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	:	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	:	0.0.0.0
HTTPポート番号	デフォルト	:	80
TELNETポート番号	デフォルト	:	23
無通信タイマー(秒)	デフォルト	:	600
	設定可能値	:	0、60～3600

0は600と判断します。

WEB操作が設定時間以上無い場合自動ログアウト

機器の電源制御画面の表示中は自動でログアウトしません。

機器情報

機器名称：本機に名称を付けます。本機を複数管理するときに便利です。
半角英数字で最大19文字まで指定できます。

Version ROMバージョンの表示です。

機器設定の管理

パスワード変更

「パスワード変更」ボタンをクリックします。パスワード変更画面が表示されます。
新しく設定するパスワードを2回入力し、「適用」ボタンをクリックします。
半角英数字で最大8文字まで指定できます。細心の注意を払い管理してください。

デフォルト： magic

パスワード設定画面



設定ファイル保存

適用、更新された全ての設定データが保存されます。

「パスワードも保存しますか？」画面について

「はい」 選択 : 全てのパスワードを保存します。

「いいえ」選択 : 全てのパスワードを保存しません。

設定ファイル読込

保存された全ての設定データを読み込みます。「適用」ボタンをクリックし、読込んだデータを反映させます。初期設定、機能設定の全てが反映されます。

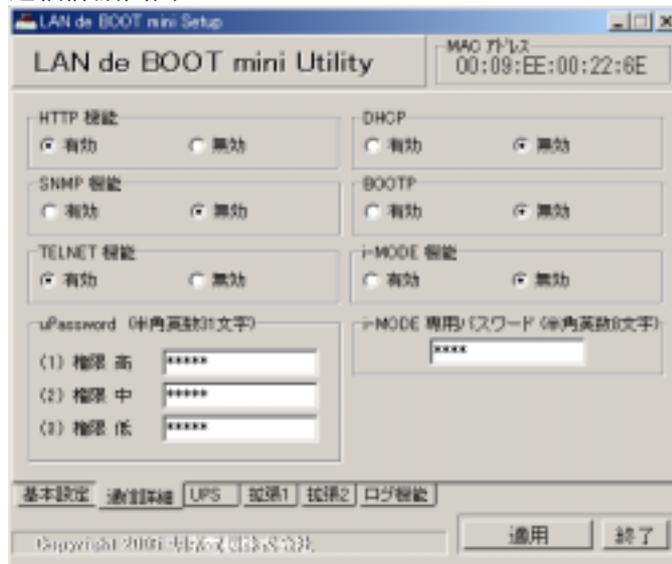
設定を初期化する

パスワードを含む全ての設定データをデフォルトに戻します。

6) 通信詳細を設定します。

「通信詳細」のタブをクリックします。通信詳細画面が表示されます。

通信詳細画面



HTTP 機能 ブラウザの電源制御機能と設定機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 有効

SNMP 機能 SNMP 機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 無効

TELNET 機能 telnet サーバ機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 有効

DHCP 機能 DHCP 機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 無効

BOOTP 機能 BOOTP 機能の有効/無効を設定します。

デフォルト： 無効

i-MODE 機能 i-MODE からの制御の有効/無効を設定します。

デフォルト： 無効

i-MODE 専用パスワード i-MODE 専用パスワードを設定します。
(半角英数字、最大 8 文字)

デフォルト： 0000

uPassword 制御ユーティリティのパスワードを設定します。
(半角英数字 31 文字)

デフォルト (1) 権限 高 : magic
(2) 権限 中 : magic
(3) 権限 低 : magic

7) UPS の設定をします。

UPS のタグをクリックします。UPS 設定画面が表示されます。

詳しくは P.82 「第 9 章 無停電電源装置 (UPS) との連携」参照

UPS 設定画面



POWER Trap 機能

電源制御時に SNMP の Trap を送信する機能の有効/無効を設定します。
(死活監視の Action 時は Authen Trap で設定。 P37,66 参照)

デフォルト：有効

8) 拡張 1 の設定をします。

拡張のタブをクリックします。拡張 1 機能設定画面が表示されます。

モデムと COM の設定は本機 DIP スイッチ.1 が OFF のときのみ反映されます。

拡張 1 機能設定画面



モデム設定

モデムを利用する場合にチェックします。

モデム無通信タイマー : 指定した時間内に、モデムへの通信が無い
(無通信)場合に自動的に回線を切断します。

デフォルト : 10 (分)

設定可能値 : 1 以上

COM 設定

Speed : 通信速度を設定します。 デフォルト : 38400 bps

Date Bit : データビットを設定します。 デフォルト : 7

Stop Bit : ストップビットを設定します。 デフォルト : 1

Parity : パリティを設定します。 デフォルト : None

中継機能のシリアルコンソール利用時にも適用されます。

監視情報設定

センターIP : 監視情報送信先 IP アドレス デフォルト : 0.0.0.0

機器の ID : RPC-4XL を特定する ID デフォルト : 0

送信間隔 : 監視情報送信間隔 (秒) デフォルト : 300

連続送信回数 : 電源変化時の連続送信回数 (回) デフォルト : 3

連続送信間隔 : 上欄連続送信時の間隔 (0.1 秒) デフォルト : 10

NTP サーバー

NTP サーバー : NTP サーバーのアドレス デフォルト : 0.0.0.0

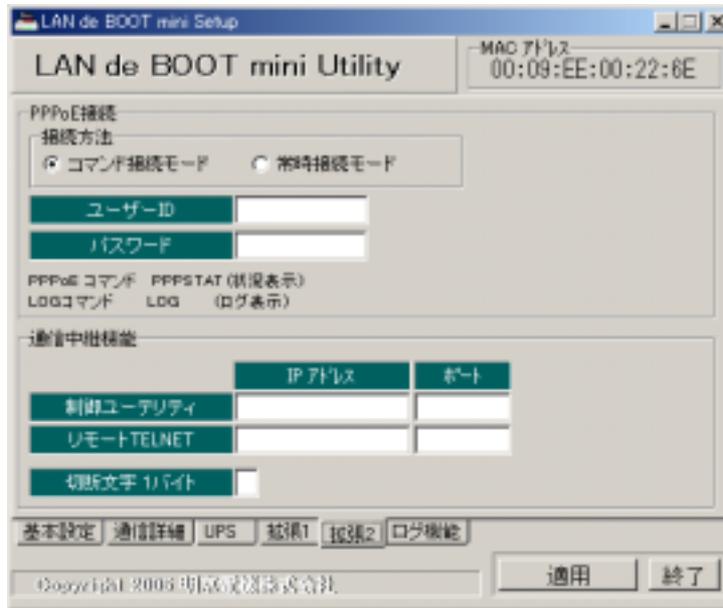
コマンド送信

コマンドを選択し、詳細な設定ができます。

9) 拡張 2 の設定をします。

拡張 2 のタブをクリックします。拡張 2 機能設定画面が表示されます。

拡張 2 機能設定画面



PPPoE 設定

接続方法 コマンド接続か常時接続かを選択します。

ユーザーID : 指定されたユーザーIDを入力します。

パスワード : 指定されたパスワードを入力します。

PPPSTA や LOG コマンドで接続を確認できます。「第 13 章 PPPoE の使用」を参照

通信中継機能設定

制御ユーティリティ IPアドレス : 制御ユーティリティから中継する、
TELNET サーバーのアドレス
ポート : 制御ユーティリティから中継する、
TELNET サーバーのポート

リモート TELNET IPアドレス : TELNET から中継する、TELNET
サーバーのアドレス
ポート : TELNET から中継する、TELNET
サーバーのポート

切断文字 1 バイト : 中継通信を切断する文字「空」の場
合は、切断文字無しとなります。

- 10) ログイン機能の設定をします。
詳しくは P.78 「第 8 章 ログイン機能」参照

ログイン機能設定画面



記録

ログを取る項目にチェックを入れます。

表示

表示させる項目にチェックを入れます。

- 10) 画面右下にある「適用」ボタンをクリックし、設定内容を有効化します。

注意 設定変更後は、必ず「適用」ボタンのクリックをしてください。
「適用」ボタンのクリックがないと、設定内容は反映されません。

- 11) 画面右下にある「終了」ボタンをクリックします。
12) 本体前面の DIP スイッチ.3 を OFF (上) に戻します。
13) 本体前面の RESET スイッチを押します。

以上で初期設定は完了です。

2. ターミナルソフトによる設定

1) 本体前面の COM ポートと設定用 PC の COM ポートを付属ケーブルで接続します。

2) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度 : 38400bps
データビット : 7ビット
ストップビット : 1ビット
パリティ : なし

3) 本体前面の DIP スイッチ.3 を、ON (下) にし、RESET スイッチを押します。設定プログラムが起動し、下図が表示されます。

```
——— SNMP Agent System Configuration Utility ———  
Password:
```

4) パスワード (デフォルト : magic) を入力し、Enter キーで実行します。プロンプト「>」が表示されます。

5) 設定します。

コマンドや変数などを入力し <Enter> キーで実行します。

6) 設定内容を有効化します。

「:w」コマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

注意 設定変更後は、必ず「:w」コマンドを実行してください。
コマンドがないと設定が反映されません。

7) 設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

8) 本体前面の DIP スイッチ.3 を OFF (上) に戻し、RESET スイッチを押します。

シリアル通信のコマンド

コマンド	内 容
:r	現在のメモリー内容を表示する
:w	設定内容をメモリーに書き込む
:e	エコーバックの ON/OFF 切替え
変数名	変数の値を表示します。
変数名 = 値	変数を設定し、設定された変数を表示します。

変数については P.98 「変数一覧表」参照

3. TELNET による設定

- 1) 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。
- 2) 以下のように指定し、本機にアクセスします。

デフォルトの場合

IPアドレス : 192.168.10.1
TELNET ポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」
アンダーバーはスペースを表します。

注意 必ず TELNET ポート番号を指定してください。
TELNET ポート番号を指定しないとアクセスできません。

- 3) プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 LAN de BOOT (Noname) server ready
```

- 4) 任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。
- 5) パスワードを入力し、<Enter>キーで実行します。「OK」の応答があります。
- 6) 設定します。コマンドや変数などを入力し<Enter>キーで実行します。
(IPアドレスなど一部の設定はCPUリセット後に反映されます。)

TELNET 通信のコマンド

コマンド	内 容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定を FROM に書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。(4)
. 変数名 = 値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPU をリセットします。(電源状態は変化しません。)

変数についてはP.102「変数一覧表」参照

「&SAVE」コマンドについて

環境（変数全体）を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」を出力します。これをファイルに保存し、のちにファイルから入力すると、そのときの設定になります。パスワードなど、いくつかの変数は保存されません。ファイルをテキストエディタで変更することもできます。なお、「&SAVE」は、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

プロンプトやコマンドについて

TELNET からアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「>」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。制御ユーティリティの場合は、画面にはコマンドが表示されますが、ファイルには書き出されません。ファイル書き出し中に例えば「&POS」とすると、TELNET では「1101」といった応答だけが書き出されますが、制御ユーティリティでは応答も書き出されません。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

変数名	:	promptMode
値	:	0 (プロンプト表示無し)
	:	1 (「>」のプロンプト表示)
	:	2 (「 機器名 > 」のプロンプト表示)

4. LAN からの IP アドレス設定

- 1) LAN や VPN 上に 192.168.10.1 および 2 の IP アドレスを持つホストがないことを確認します。
設定用 PC と本機を 1 対 1 で接続する場合は必要ありません。
- 2) 設定用 PC の IP アドレスとネットマスクを以下の通り設定します。
Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。

IP アドレス : 192.168.10.2
ネットマスク : 255.255.255.0

- 3) 設定用 PC の Web ブラウザを起動します。
http://192.168.10.1 を指定し、本機にアクセスします。
機能設定のトップメニュー画面が表示されます。

注意 ブラウザは JavaScript と cookie に対応している必要があります。

- 4) 「設定メニュー」をクリックし、ログインします。
詳しくは P.31 「第 4 章-1. ログイン」参照
- 5) 「ネットワーク設定」をクリックします。
ネットワーク設定画面が表示されます。
- 6) 共通設定の IP アドレス欄にご利用になる LAN に適切な IP アドレスを入力します。
- 7) 「設定更新」ボタンをクリックします。
- 8) 「ログアウト」ボタンをクリックし、ログアウト処理をします。
詳しくは P.33 「第 4 章-2. ログアウト処理」参照
- 9) Web ブラウザを閉じます。
- 10) 本体前面の RESET スイッチを押します。
- 11) 設定用 PC の IP アドレスを元に戻します。
Win9x の場合は設定変更後、再起動が必要です。

注意 設定後は、必ず「設定更新」ボタンをクリックし、本体前面の RESET スイッチを押してください。
本機のリセットをしないと設定が反映されません。

以上で LAN からの IP アドレスの設定は終わりです。

第 4 章 機能設定

機能設定は、Webコントロールプログラムを利用して設定します。

1. ログイン

インターネットでアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。
通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。
(PROXY 経由ではご利用になれません)
(スケジュールや Email など一部の機能は WEB から設定できません。)

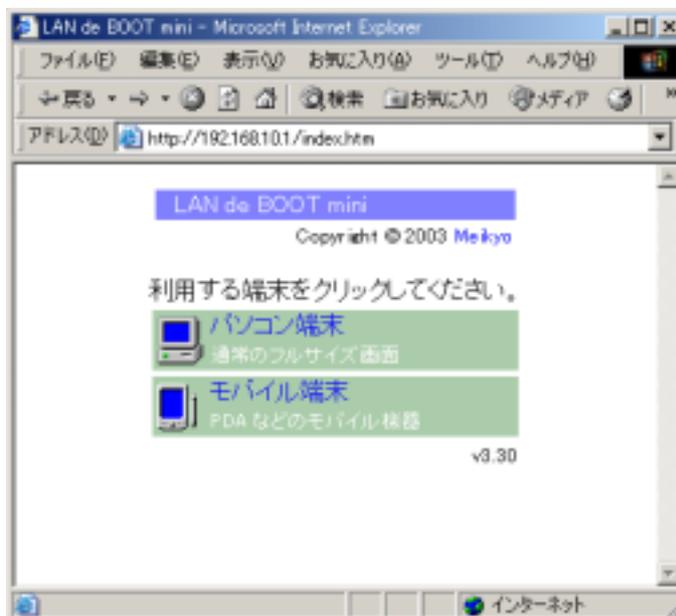
注意 ブラウザは JavaScript と cookie に対応している必要があります。

- 1) Web ブラウザを起動し、本機に設定された IP アドレスを指定してアクセスします。

HTTP ポート番号「80」デフォルトの場合
`http://192.168.10.1`

HTTP ポート番号「500」に設定した場合
`http://192.168.10.1 : 500`

- 2) トップページ画面が表示されます。
トップページ画面



- 3) 「パソコン端末」をクリックします。
ログイン画面が表示されます。

ログイン画面



- 4) ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ユーザー名 : admin (固定)
パスワード : magic (デフォルト)

- 5) トップメニューが表示されます。

トップメニュー画面



2. ログアウト処理

設定や操作が終了し、Webブラウザを閉じる場合は必ずログアウト処理をします。

ログアウト処理

- 1) 各画面の下部にある「ログアウト」ボタンをクリックします。
「ログアウト」ボタンのクリックにより Web コントロールプログラムからログアウトします。
- 2) 画面はトップページに戻ります。Webブラウザを閉じます。

注意 必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のままWebブラウザをとじた場合、一定時間、本機にアクセスできなくなります。この場合の一定時間とは、設定されている「無通信タイマー」の時間を指します。

3. ボタン仕様

Web 画面上のボタン仕様一覧

- | | | |
|---------|---|---|
| 設定更新 | : | 設定を更新します。
このボタンをクリックしないと変更した設定は反映されません。 |
| リセット | : | 変更前の設定へ戻ります。
設定更新ボタンクリック前の設定へは戻りません。 |
| 設定メニュー | : | 設定メニュー画面へ移動します。 |
| ログアウト | : | Web コントロールプログラムからログアウトします。
Web 画面を閉じる前に必ずこのボタンをクリックしてください。 |
| トップメニュー | : | トップメニュー画面へ移動します。 |

4. 機器設定

本機に接続されたデバイスの電源制御に関する設定をします。

- 1) トップメニュー画面から設定メニュー画面へ進み、「機器設定」をクリックします。機器設定画面が表示されます。

機器設定画面

- 2) 機器名称を設定します。
本機に名前をつけることができます。半角英数字 19 文字以内で指定します。複数の本機を一括管理する場合に便利です。
- 3) OUTLET 設定の各項目に入力します。

Outlet Name (デバイス名称)

各アウトレットに名前をつけ、接続されたデバイスを識別します。半角英数字 20 文字以内で指定できます。

Shut down (シャットダウン遅延時間)

各アウトレットの電源出力を停止する際の遅延時間を設定します。この設定により、接続された機器を正常にシャットダウンしてから電源出力を停止できます。「-1」設定は、ルーターやハブなどの通信機器を接続する場合に便利です。電源切断により、ネットワークへアクセスできなくなるケースを回避します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

詳しくは P.76 「第 7 章 シャットダウン」参照

- ・個別 Outlet 制御の OFF 操作
- ・全 Outlet 制御の OFF 操作

デフォルト : 30

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「-1」: Outlet 制御の OFF 操作を使用不可にします。
RESET 操作のみ可能です。

「0」: 即座に電源出力を停止します。

「1 ~ 3600」: 指定した時間遅延させた後、電源出力を停止します。

Reboot (リブート時間)

各アウトレットの電源出力を停止してから開始するまでの時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) シャットダウン遅延時間は反映されません。

- ・個別 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

Power ON (電源出力開始遅延時間)

各アウトレットの電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により、指定した順番に、指定したタイミングで各アウトレットの電源出力を開始させることができます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

- ・本体電源投入時
- ・全 Outlet 制御の ON 操作
- ・全 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト : No.1-1 No.2-2 No.3-3 No.4-4

設定可能値 : -1 ~ 3600 (秒)

「-1」: 自動で電源出力を開始しません。

「0」: 即座に電源出力を開始します。

「1 ~ 3600」: 指定した時間遅延させた後、電源出力を開始します。

4) 共通設定の各項目に入力します。

再起動時間 (一斉リブート時間)

全アウトレットの電源出力を停止してから電源出力を開始するまでの時間を設定します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

注) シャットダウン遅延時間は反映されません。

・ 全 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト : 10

設定可能値 : 8 ~ 3600 (秒)

無通信タイマー

Web コントロールプログラムから自動的にログアウトする時間を設定します。指定した時間、ブラウザ画面の操作がない場合に接続を切断します。

注) 「機器の電源制御」「UPS 管理」画面の表示中は自動ログアウトしません。

デフォルト : 600

設定可能値 : 0、60 ~ 3600 (秒)

「0」: 600 秒後に自動ログアウトします。

「60 ~ 3600」: 指定した時間後にログアウトします。

5) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

5. ネットワーク設定

- 1) 設定メニュー画面で、「ネットワーク設定」をクリックします。
ネットワーク設定画面が表示されます。

ネットワーク設定画面



- 2) 共通設定の各項目に入力します。
IPアドレス、ネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定します。
共通設定の変更後は必ず本体前面の RESET スイッチを押してください。
- 3) システム情報設定の各項目に入力します。
機器名称、設置場所、連絡先の設定です。必要があれば設定します
- 4) SNMP設定の各項目に入力します。
SNMP マネージャーを利用してシステム管理をする場合に必要です。

コミュニティ名

SET、GET、TRAP コミュニティ名を入力します。

Authen Trap

死活監視の Action 時に Trap を送信したい場合に有効とします。

デフォルト : 無効

TRAP 通知先

最大 8 個のホストをトラップ通知先として設定できます。ホストの IP アドレスを入力します。

5) i-MODE 設定の各項目に入力します。

i-MODE 接続

i-MODE を利用して接続する場合に有効とします。

デフォルト : 無効

i-MODE 用パスワード

i-MODE 用パスワードを設定します。

半角英数 31 文字まで指定できます。

デフォルト : 0000

6) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

6. セキュリティ設定

- 1) 設定メニュー画面で、「セキュリティ設定」をクリックします。
セキュリティ設定画面が表示されます。

セキュリティ設定画面



- 2) セキュリティ制御の有効、無効を選択します。

デフォルト：無効

有効：レベルの設定によりアクセス、操作を制限します。

無効：ユーザー名やパスワードが一致すれば全ての操作を無条件に許可します。

- 3) セキュリティ設定の各項目を入力します。
セキュリティ制御を有効にした場合、アクセスを許可するホストまたはネットワーク（最大8個）や、操作できる権限レベルを設定します。

IPアドレス

アクセスを許可するホストまたはネットワークのIPアドレスを入力します。

サブネット

サブネットマスクはネットワークアドレスを設定する場合に必要です。ビット数を入力します。ホストアドレスの場合は、設定しないでください。

例) 255.255.255.0の場合 : 24
255.255.255.192の場合 : 26

レベル

セキュリティ制御を有効にした場合、アクセスを許可した各ホストまたはネットワークに対し、操作できる権限レベルを設定します。

権限レベルは以下の3段階です。

i d e n t : システム情報の取得のみ
システム情報（詳細）除く
c o n t r o l : システム情報の取得及び電源の制御のみ
システム情報（詳細）除く
a d m i n : 全ての権限
(システム情報の取得、電源の制御、設定)

設定例)

ホストの場合 IPアドレス : 110.200.15.10
サブネット : (空欄、入力不可)
レベル : a d m i n

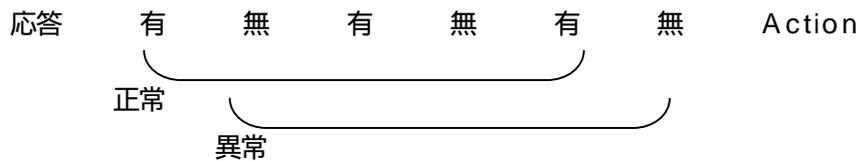
ネットワークの場合 IPアドレス : 110.200.15.64
サブネット : 26 (255.255.255.192)
レベル : c o n t r o l

- 4) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

7. 監視設定

本機に接続されたデバイスの状態監視機能の設定をします。監視設定されたデバイスに対し、1分間隔で状態確認 (ping) を行い、設定した送信回数内で設定した無応答回数があった場合に異常と判定します。無応答が設定した条件 (デバイス数) に達すると、設定された処理 (Action) を実行します。

判定例) 送信回数: 5 無応答: 3 の場合



注意 応答のない状態が続いた場合は、約 1 時間毎に設定された Action を実行します。再度、条件が成立しても Action は 1 時間に 1 度しか実行しません。監視設定した全てのデバイスから応答があると最初の状態に戻ります。(変数 debOIR rebootCount が 1 の時)

- 1) 設定メニュー画面で、「監視設定」をクリックします。
監視設定画面が表示されます。

監視設定画面



2) 監視設定の各項目に入力します。

IPアドレス

監視するデバイスのIPアドレスを入力します。各アウトレットに3個まで設定できます。入力されたIPアドレスに対して、状態確認のpingを1分間隔(デフォルト)で送信します。

送信回数

pingの無応答回数を数える送信回数の設定です。

デフォルト : 10
設定可能値 : 1 ~ 100

無応答(回数)

送信回数内で異常と判定するpingの無応答回数の設定です。

デフォルト : 10
設定可能値 : 1 ~ 100

条件(数)

異常と判定されたIPアドレスが設定数に達するとActionを実行します。

デフォルト : 1
設定可能値 : 1 ~ 3

Action

実行させるActionを選択します。

NoPing : 監視機能停止
noAction : 処理なし
Reset : リブート(電源リセット)
powerOn : 電源 ON
powerOff : 電源 OFF

Reboot回数、Reboot間隔(分)、無応答検出時間(秒)、送信間隔(分)の設定はコマンドまたは制御ユーティリティで設定します。

注意 アウトレットの状態がOFFの場合は、AcitonがPowerOnの時だけ実行されます。その他のActionは動作しません。

3) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

8. Wakeup 設定

本機に接続されたデバイスの Wake On LAN に関する設定をします。
Wake On LAN 対応の機器を電源出力開始と同時に MAGIC PACKET を送信しブートアップさせることができます。

- 1) 設定メニュー画面で、「Wakeup 設定」をクリックします。
Wakeup 設定画面が表示されます。

Wakeup 設定画面



- 2) Wakeup 設定の各項目に入力します。

Mac アドレス

ブートアップさせるデバイスの MAC アドレスを入力します。

パケット送信回数、パケット送信間隔

MAGIC PACKET の送信回数と、送信間隔（秒）を設定します。

送信回数 デフォルト：2
設定可能値：0～99

送信間隔 デフォルト：15
設定可能値：2～999（秒）

- 3) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

第 5 章 機器の電源制御

1. Webブラウザによる制御

(注：PROXY 経由ではご利用になれません。)

注意 ブラウザは JavaScript と cookie に対応している必要があります。

- 1) Webブラウザを起動し、本機に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。
- 2) トップページ画面が表示されます。
「パソコン端末」をクリックします。
- 3) ログイン画面が表示されます。
ユーザー名とパスワードを入力して、ログインします。
- 4) トップメニュー画面が表示されます。
「機器の電源制御」をクリックします。
- 5) 機器の電源制御画面が表示されます。

機器の電源制御画面（この画面の表示中は自動ログアウトしません。）



電源状態の表示について

電源状態の自動取得による表示

ログイン時、電源操作直後、Web リロード時などの表示です。

アウトレットに遅延時間が設定されている場合は電源操作直後でも表示が変わらない場合があります。

「最新情報に更新」ボタンのクリックによる表示

最新の電源状態を取得し表示します。

6) 制御するアウトレットの操作ボタンをクリックします。

個別制御操作ボタンの動作

- ON : 電源出力を開始します。
- OFF : 電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間後に停止します。
【反映される機能】・Shutdown(シャットダウン遅延時間)
- RESET : 電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間に関係なく直ちに停止し、設定されたリブート時間後に開始します。
【反映される機能】・Reboot (リブート時間)

全 Outlet 制御操作ボタンの動作

- ON : 全アウトレットの電源出力を設定された電源出力開始遅延時間後に開始します。
【反映される機能】・PowerON (電源出力開始遅延時間)
- OFF : 全アウトレットの電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間後に停止します。
【反映される機能】・Shutdown(シャットダウン遅延時間)
- RESET : 全アウトレットの電源出力をシャットダウン遅延時間に関係なく直ちに停止し、設定された再起動時間後に開始します。
【反映される機能】・PowerON (電源出力開始遅延時間)

7) 電源操作終了後、Webブラウザを閉じる場合は必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウト処理をします。

注意	必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のままWebブラウザをとじた場合、一定時間他のホストから本機にアクセスできなくなります。この場合の一定時間とは、本機に設定されている「自動ログアウト時間」を指します。
-----------	--

2. TELNET 接続による制御

本機は TELNET サーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

1) TELNET による接続

「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。

以下のように指定し、本機にアクセスします。

デフォルトの場合

IP アドレス : 192.168.10.1
TELNET ポート番号 : 23

「telnet_192.168.10.1_23」
アンダーバーはスペースを表します。

プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。

```
220 LAN de BOOT (Noname) server ready
```

2) ログインしないで制御する方法

パスワードとコマンドを組み合わせて実行します。

基本機能

- ・個別電源操作 (ON/OFF/RESET)
- ・全アウトレット電源操作 (ON/OFF/RESET)
- ・電源状態取得

制御コマンドを以下のように構成し、< Enter >キーで実行します。

制御コマンド構成

* # x x x x n

x x x x : パスワード
x x x x : 制御コマンド
n : アウトレット番号 1 ~ 4

例) アウトレット 4 番をリブートします。(パスワード : magic)

* magic # por4

3) ログインして制御する方法

- 基本機能
- ・ 個別電源操作 (ON/OFF/RESET)
 - ・ 全アウトレット電源操作 (ON/OFF/RESET)
 - ・ 電源状態取得
 - ・ 電源状態取得 (詳細)
 - ・ バージョン表示
 - ・ パスワード変更

接続後、任意のキーで入力します。パスワードが要求されます。

パスワードを入力し < Enter > キーで実行します。「OK」の応答があります。

制御コマンドを入力し < Enter > キーで実行します。

```

220 LAN de BOOT (Noname) server ready
password:
OK
    
```

制御コマンド一覧表

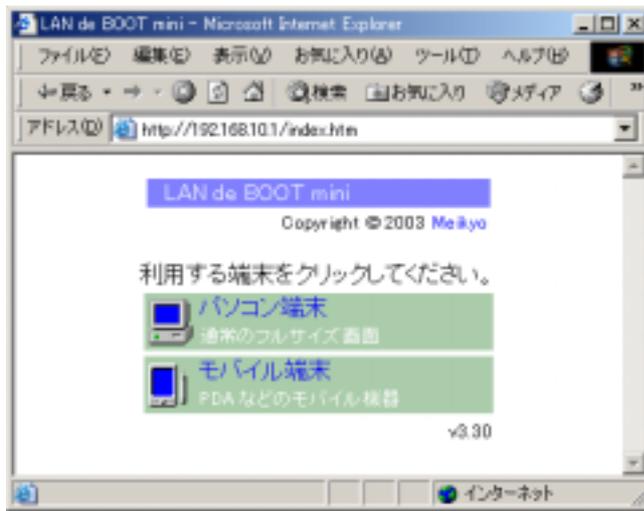
制御コマンド	内 容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート (電源リセット)
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 n = 1 ~ 4
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 n = 1 ~ 4
PORn	指定されたアウトレットのリブート (電源リセット) n = 1 ~ 4
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答: mmmm 左側からアウトレット 1 ~ 4 m = 0 : OFF 1 : ON
XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答: ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット 1 ~ 4 A=0 : OFF 1 : ON B=0 : シャットダウン遅延中 1 : ON 遅延中 XXXX=B のタイマ残り時間

3. モバイル端末からの制御

(注：PROXY 経由ではご利用になれません。)

1) Webブラウザを起動し、本機に設定されたIPアドレスを指定してアクセスします。

2) トップページ画面が表示されます。
トップページ画面



3) 「モバイル端末」をクリックします。
ログイン画面が表示されます。
ログイン画面



4) ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

ユーザー名：admin（固定）

パスワード：magic（デフォルト）

5) モバイルメニューが表示されます。

モバイルメニュー画面



6) 「機器の電源制御」をクリックします。
機器の制御画面が表示されます。

機器の制御画面



7) 制御するアウトレットの操作ボタンをクリックします。

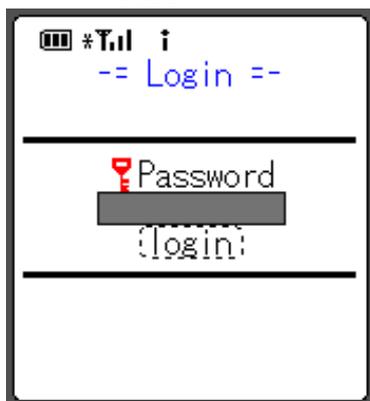
8) 電源操作終了後、Webブラウザを閉じる場合は必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウト処理をします。

4. i-MODE 端末からの制御

(注：PROXY 経由ではご利用になれません。)

- 1) Web ブラウザを起動し、本機に設定された IP アドレスを指定してアクセスします。
- 2) ログイン画面が表示されます。

ログイン画面



- 3) i-MODE 用パスワードを入力し、「login」ボタンをクリックします。

パスワード：0000 (デフォルト)

- 4) メニュー画面が表示されます。

メニュー画面



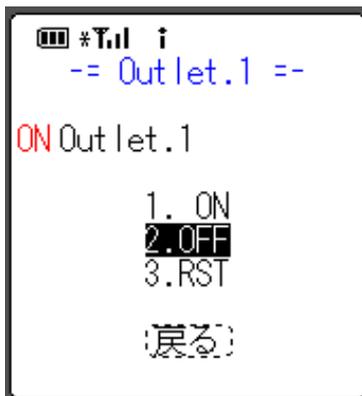
- 5) 「電源制御」を選択し、クリックします。
電源制御画面が表示されます。

電源制御画面



- 6) 制御するアウトレット番号を選択し、クリックします。
操作画面が表示されます。

操作画面



- 7) 操作する項目を選択し、クリックします。
- 8) 電源操作終了後、Webブラウザを閉じる場合は必ず「logout」ボタンをクリックしてログアウト処理をします。

注意 必ずログアウト処理をしてください。ログアウト未処理のままWebブラウザをとじた場合、一定時間、他のホストから本機にアクセスができなくなります。この場合の一定時間とは、設定されている「無通信タイマー」の時間を指します。

5. シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力での電源制御ができます。

- 1) 設定ユーティリティソフトで COM 設定をします。
詳しくは P.19 「第 3 章-1. ユーティリティによる設定」参照
- 2) 本体前面の DIP スイッチ.1 を OFF (上) にします。
- 3) 本体前面の COM とパソコンの COM を付属の RS232C (クロス) ケーブルで接続します。
- 4) ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。
- 5) 制御コマンドを入力し <Enter> キーで実行します。コマンドは「2.telnet 接続による制御」と共通です。
詳しくは P.48 「制御コマンド一覧表」参照
PASS コマンドは利用できません。
EXIT コマンドには応答のみ返します。

6. モデムからの制御

モデム経由での電源制御ができます。

- 1) 設定ユーティリティソフトでモデム設定・COM 設定をします。
詳しくは P.19 「第 3 章-1. ユーティリティによる設定」参照
- 2) 本体前面の COM とモデムをストレートケーブルで接続します。
- 3) 遠隔地のモデムから接続します。
- 4) 接続されるとパスワードが要求されます。
- 5) パスワードを入力します。コマンド入力状態になります。
- 6) 制御コマンドを入力し、<Enter> キーで実行します。コマンドは「2.telnet 接続による制御」と共通です。
詳しくは P.48 「制御コマンド一覧表」参照
PASS コマンドは利用できません。

第 6 章

制御ユーティリティ

1. お使いの前に

設定ユーティリティを利用し、制御ユーティリティ用のパスワードを設定します。
パスワードには3つのレベルがあり、権限を制限できます。

- 1) 通信詳細画面 uPassword 欄の(1)から(3)にパスワードを入力します。
半角英数字で31文字まで指定できます。

通信詳細画面 (設定ユーティリティ)



デフォルト (1)権限 高 : magic
 (2)権限 中 : magic
 (3)権限 低 : magic

権限について

レベル	変数名	権限の内容
(1)権限 高	uPassword1	: 電源制御、状態取得、各種設定変更、コマンド使用
(2)権限 中	uPassword2	: 電源制御、状態取得、各種設定変更
(3)権限 低	uPassword3	: 電源制御、状態取得

- 2) 適用ボタンをクリックします。

2. 接 続

1) 制御ユーティリティを起動します。

初期画面



接続アドレス

接続する本機のIPアドレスと制御ユーティリティのポート番号またはドメイン名を入力します。制御ユーティリティのポート番号はコマンドで変更できます。

ポート番号「9000」デフォルトの場合	「192.168.10.1」
ポート番号「500」に設定した場合	「192.168.10.1 : 500」

接続アドレスボタン

一度接続されたIPアドレスを最大8個まで記憶します。記憶が複数になると、「接続アドレス」のラベルがボタンになります。ボタンをクリックしてIPアドレスのリストを表示させます。リストから接続するIPアドレスを選択します。また、アドレスを削除する場合は、削除するアドレスを選択し、BackSpaceキーを押します。

パスワード

接続する本機の制御ユーティリティ用パスワードを入力します。

パスワードを記憶

チェックを入れるとパスワードを記憶します。

ネームサーバアドレス

ドメイン名の場合はネームサーバアドレスも入力します。

注意 同時に複数のPCからアクセスできますが、同じ設定画面を開くことはできません。一度、設定画面を開くと、その画面だけ閉じても、切断するまでは同じ画面を開くことはできません。

2) 接続をクリックします。本機に接続され、メニュー画面が表示されます。

メニュー画面



コマンド

コマンド制御や設定情報の取得変更を行います。

切断

通信を切断します

機器の電源制御

各アウトレットの電源 ON/OFF を行います。

アウトレット状況

死活監視の状態を表示します。

UPS 状況

UPS の状態を表示します。

システム情報

各種設定情報を表示します。

機器の設定

本機の名前、また各アウトレットの名前や遅延時間などを設定します。

監視設定

死活監視の設定を行います。

タイマ設定

週間スケジュールを設定します。

ネットワークの設定

各種ネットワークの設定を行います。

メールの設定

メールの送受信に関する設定を行います。

UPS 設定

UPS と連携するための設定を行います。

Wakeup 設定

W O L の設定を行います。

ポーリングの設定

ポーリングをする設定を行います。

通信中継

TELNET クライアント機能やシリアルコンソール機能を利用します。

終了

制御ユーティリティを終了します。

3. 制御と設定

1) 機器の電源制御

機器の電源制御画面

No.	アウトレット名	電源状態	遅延時間	操作ボタン		
1	Outlet1	ON		ON	OFF	RESET
2	Outlet2	ON		ON	OFF	RESET
3	Outlet3	ON		ON	OFF	RESET
4	Outlet4	ON		ON	OFF	RESET
5	全アウトレット制御	ON		ON	OFF	RESET

最新情報に更新

電源状態と遅延時間

現在の電源の状態を表します。

表示された遅延時間後に次の状態に変化します。

(更新されないと最新の状態が表示されません。)

個別アウトレット制御の動作

ON : 電源出力を開始します。

OFF : 電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間後に停止します。

【反映される機能】

・Shutdown(シャットダウン遅延時間)

RESET : 電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間に関係なく直ちに停止し、設定されたリブート時間後に開始します。

【反映される機能】

・Reboot(リブート時間)

全アウトレット制御の動作

ON : 全アウトレットの電源出力を設定された電源出力開始遅延時間後に開始します。

【反映される機能】

・PowerON(電源出力開始遅延時間)

OFF : 全アウトレットの電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間後に停止します。

【反映される機能】

・Shutdown(シャットダウン遅延時間)

RESET : 全アウトレットの電源出力をシャットダウン遅延時間に関係なく直ちに停止し、設定された再起動時間後に開始します。

【反映される機能】

・PowerON(電源出力開始遅延時間)

・再起動時間

最新情報に更新

最新の電源状態を取得します。

2) アウトレット状況

アウトレットの監視状況を表示します。

詳しくは P.86 「第 10 章 システム情報」参照

アウトレット状況画面

No.	Power	Judge	Send Count	No Echo Limit	Cond.	Action	Reboot Count	Reboot Interval	Action Count	Last Ping	No Echo Count	Last Ping	No Echo Count	Last Ping	No Echo Count
1	ON														
2	ON														
3	ON														
4	ON														

- Power : 電源の状態を表示します。
- Judge : 監視の判定結果を表示します。
- Send Count : 設定された送信回数を表示します。
- No. Echo Limit : 設定された無応答回数を表示します。
- Cond. : 設定された条件数を表示します。
- Action : 設定された Action の内容を表示します。
- Reboot Count : 設定された再起動回数を表示します。
- Reboot Interval : 設定された再起動間隔を表示します。
- Action Count : 実行された Action の回数を表示します。
- Last Ping : 最新 Ping の応答結果を表示します。
- No Echo Count : Ping の無応答回数を表示します。
- 最新の情報に変更 : 最新の状態を取得します。

- 3) UPS 状況
UPS の状態を表します。

UPS 状況画面



- 4) システム情報
設定したシステム情報を表示します。

システム情報画面



5) 機器の設定

電源制御に関する設定をします。

詳しくは P.34 「第 4 章-4.機器設定」参照

機器設定画面

No.	Outlet Name	Shutdown	Reboot	PowerOn
1	Outlet1	0	0	0
2	Outlet2	0	0	0
3	Outlet3	0	0	0
4	Outlet4	0	0	0

- 機器名 : 機器名称を設定します。
- Outlet Name : 各アウトレットの名称を設定します。
- Shutdown : 電源 OFF 時の遅延時間を設定します。
- Reboot : RESET コマンド実行時、死活監視リブート時の OFF 時間を設定します。
- PowerOn : 本体電源投入時、全アウトレット ON、RESET 時の ON 遅延時間を設定します。
- 再起動時間 : 全アウトレット RESET 時の OFF 時間を設定します。
- 設定更新 : 設定を更新します。

注意 設定後は必ず設定更新ボタンをクリックしてください。設定更新ボタンのクリックがないと設定は更新されません。ご注意ください。

6) 監視設定

詳しくは P.41 「第 4 章-7.監視設定」参照

監視設定画面



- IPAddr1 : 監視する IP アドレスを設定します。
- IPAddr2 : 監視する IP アドレスを設定します。
- IPAddr3 : 監視する IP アドレスを設定します。
- Send Count : Ping の無応答回数を数える送信回数を設定します。
- No Echo Limit : 送信回数内で異常と判定する Ping の無応答回数を設定します。
- Cond : Action を実行させるための異常 IP アドレスの数を設定します。
- Action : Action を選択します。
Trap を送信する時は Authen Trap を有効にします。
- Reboot Count : Aciton 後、無応答状態の時に再リブートする回数を設定します。
- Reboot Interval : Aciton 後、無応答状態の時に再リブートする間隔を設定します。(PING の送信間隔より短い値は、PING の送信間隔と等しくなります。)
- 無応答検出時間(秒) : Ping への応答待ち時間を設定します
- 送信間隔(分) : Ping の送信間隔を設定します。
- 設定更新 : 設定を更新します。

7) タイマ設定

No.	有効	アウトレット	曜日	時	分	アクション
1	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
2	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
3	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
4	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
5	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
6	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
7	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
8	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
9	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
10	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
11	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
12	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
13	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
14	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
15	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
16	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
17	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
18	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
19	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction
20	<input type="checkbox"/>	全アウトレット	毎日	0	0	noAction

- 有効 : 設定したタイマの有効/無効
 アウトレット No. : 制御するアウトレット No.
 曜日 : 実行する曜日 (毎日または指定曜日)
 時 : 実行する時間
 分 : 実行する分
 アクション : 実行する動作
 設定更新 : 設定を更新します。

- 8) ネットワークの設定
各種ネットワークを設定します。

ネットワーク設定画面

The screenshot shows a window titled "ネットワーク設定" (Network Settings). It is divided into three sections: "共通設定" (Common Settings), "システム情報設定" (System Information Settings), and "SNMP設定" (SNMP Settings). Each section contains a list of configuration items with corresponding input fields. A "設定更新" (Update Settings) button is located in the top right corner.

共通設定	
IPアドレス	192.168.10.1
ネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
DNSサーバアドレス	0.0.0.0
NTPサーバアドレス	0.0.0.0
システム情報設定	
システム情報設定	Meshero
システムの設置場所	info@meikyo.co.jp
連絡先	
SNMP設定	
SETコミュニティ名	public
GETコミュニティ名	public
TRAPコミュニティ名	public
Authen Time	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
TRAP通知先 1	0.0.0.0
TRAP通知先 2	0.0.0.0
TRAP通知先 3	0.0.0.0
TRAP通知先 4	0.0.0.0
TRAP通知先 5	0.0.0.0
TRAP通知先 6	0.0.0.0
TRAP通知先 7	0.0.0.0
TRAP通知先 8	0.0.0.0

DNSサーバアドレス
DNSサーバあるいはルーターのアドレスを設定します。

その他の設定

詳しくはP.37「第4章-5.ネットワーク設定」参照

9) メールの設定

メール設定画面

The screenshot shows a web-based configuration interface for email settings. It includes fields for user name, password, email address, POP server name, and SMTP server name. There are checkboxes for enabling external email addresses and action notifications. Below these are sections for enabling/disabling commands from email and call-back functions. At the bottom, there are input fields for auto-logout time (minutes) and email check interval (minutes), with default and possible values listed.

ユーザー名、パスワード、メールアドレス、POP サーバ名、SMTP サーバ名は、プロバイダからのメール資料に基づき設定します。

外部メールアドレス

監視機能で異常時および復旧時にメールを送信するアドレスを設定します。メールからのコマンド機能とコールバック機能が許可されます。

APOP を使用

印をつけると APOP が有効になります。

アクション通知先

印をつけるとアクション時にメールが通知されます。

異常時 (Outlet * Reset)、復旧時 (Outlet * Recovered)

メールからのコマンド

許可、禁止を設定します。

コールバック

許可、禁止かを設定します。

自動ログアウト時間 (分)

メールからの制御のタイムアウトを設定します。

デフォルト : 10

設定可能値 : 1 ~ 60

メールチェック間隔 (分)

メールをチェックする間隔を設定します。メールサーバによってはあまり短い間隔だとエラーになることがあります。ご注意ください。

デフォルト : 3

設定可能値 : 1 ~ 60

10) UPS 設定

UPS 設定画面

UPS名称	
UPS監視時間間隔(秒)	10
シャットダウン開始待機時間(秒)	120
UPS自動停止	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
停電検知レベル	<input type="radio"/> 負 <input checked="" type="radio"/> 正
ローバッテリー検知レベル	<input type="radio"/> 負 <input checked="" type="radio"/> 正
シャットダウン信号レベル	<input type="radio"/> 負 <input checked="" type="radio"/> 正

設定更新

UPS 名称

UPS の名称を設定します。

UPS 監視時間間隔

UPS のバッテリー状態、入力電圧状態の確認時間を設定します。。

シャットダウン監視待機時間

電源障害発生後、電源障害解消の待機時間を設定します。。

UPS 自動停止

停電時に、全デバイスのシャットダウン後、UPS の出力停止を自動的に行う機能の有効化、無効化を設定します。

停電検知レベル、ローバッテリー検知レベル、シャットダウン信号レベルは UPS の設定に合わせて設定します。

詳しく P.82 「第 9 章 無停電電源装置 (UPS) との連携」参照

11) WakeUP 設定

Wakeup 画面

No.	アウトレット名	MACアドレス
1	Outlet1	00:00:00:00:00:00
2	Outlet2	00:00:00:00:00:00
3	Outlet3	00:00:00:00:00:00
4	Outlet4	00:00:00:00:00:00

パケット送信回数

パケット送信間隔 (秒)

MAC アドレス

ブートさせるデバイスの MAC アドレスを入力します。

パケット送信回数

MAGIC PACKET の送信回数を設定します。

パケット送信間隔 (秒)

MAGICPACKET の送信間隔を設定します。

12) ポーリングの設定

本機より指定したIPアドレスに対してポーリングを行います。

ポーリングの設定画面

	PCポート
PCアドレス 1	
PCアドレス 2	
PCアドレス 3	
PCアドレス 4	
PCアドレス 5	
PCアドレス 6	
PCアドレス 7	
PCアドレス 8	

ポーリング 許可 禁止

設定更新

PC アドレス 1 ~ 8

ポーリングの対象とする PC のアドレスを設定します。アドレスは、IP アドレスでもドメイン名でも指定できますが、ドメイン名を指定するときは、「ネットワークの設定」画面で、ネームサーバアドレスも設定します。

PC ポート

ポート番号は、PC に外部からアクセスするポート番号です。同じ PC に対して複数の本機がポーリングを行う場合は、それぞれ異なるポート番号を設定します。

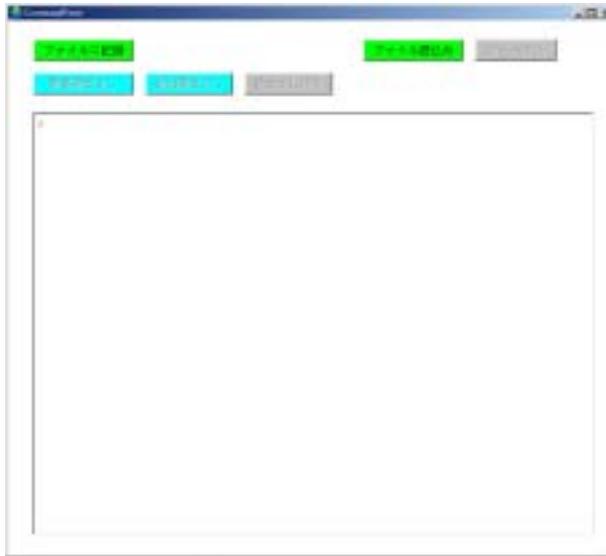
ポーリング

機能の許可・禁止を設定します。

13) コマンド

コマンドの送受信や、ファイルの作成、送信ができます。

コマンド画面



コマンドの送受信

コマンドを直接入力し、< Enter >キーで実行します。

ファイルに記録

コマンドの送受信の結果を記録するファイルの作成または選択をします。

新規書き出し

「ファイルに記録」で作成したファイルにコマンドの結果を記録します。

- 1. 「ファイルに記録」をクリックし、記録するファイルを選択します。
- 2. 「新規書き出し」をクリック後、コマンドの送受信をします。
- 3. 「書き出し停止」をクリックします。送受信の結果が記録されます。

追加書き出し

「新規書き出し」で作成したファイルに追加記録します。

- 1. 「ファイルに記録」をクリックし、追加記録するファイルを選択します。
- 2. 「追加書き出し」をクリック後、コマンドの送受信をします。
- 3. 「書き出し停止」をクリックします。送受信の結果が追加記録されます。

書き出し停止

ファイルへの書き出しを停止する場合に選択します。

ファイル読み込み

ファイル選択画面でファイルを選択し本機へ転送を開始します。

読み込み停止

本機への転送中、クリックすると転送を中止します。

14) 通信中継

TELNETクライアント機能やシリアルコンソール機能を利用します。

通信中継画面



IPアドレス、ポート

接続するTELNETサーバーのIPアドレスとポートを設定します。

接続、切断

TELNETクライアントとしてTELNETサーバーに接続します。

シリアル開始、シリアル終了

シリアルコンソールとしての通信を開始、終了します。

新規書き出し

「ファイルに記録」で作成したファイルにコマンドの結果を記録します。

「コマンド」参照

追加追加書き出し

「新規書き出し」で作成したファイルに追加記録します。

「コマンド」参照

書き出し停止

ファイルへの書き出しを停止する場合に選択します。

ファイル読み込み

ファイル選択画面でファイルを選択し本機へ転送を開始します。

読み込み停止

本機への転送中、クリックすると転送を中止します。

4. ポーリング

ポーリング機能は、本機が定期的に PC の制御ユーティリティに接続を試みる機能です。本機が、インターネットには接続できても外部からはアクセスできないような環境にあるときポーリング機能が役に立ちます。

制御ユーティリティで「ポーリングの設定」が必要です。ご確認ください。

- 1) 初期画面で、「ポーリング」ボタンをクリックします。
ポーリング画面になります。
- 2) PC のポート番号を設定して「待機」ボタンをクリックします。
本機からのポーリングを待機します。数秒～1分で接続します。

5. コールバック

コールバック機能は、本機から PC の制御ユーティリティに接続を試みることを、メールによって PC の制御ユーティリティから要求する機能です。ポーリングと違って、PC のアドレスが固定できない場合にも使えます。

本機の「メール設定」と「ネットワークの設定」の「共通設定」が必要です。ご確認ください。外部メールアドレスに登録されていないアドレスはコールバックできません。

- 1) 初期画面で、「コールバック」ボタンをクリックします。
コールバック画面になります。
- 2) 「PC のメール環境」ボタンをクリックします。
PC のメール環境を設定します。
- 3) 接続したい本機のメールアドレスと、PC のアドレスおよび、ポート番号を指定します。PC のアドレスは、IP アドレスでもドメイン名でもかまいません。
ポート番号は、外部からの番号（グローバル）と、内部の番号（ローカル）の両方を指定します。ポーリングで設定したポートとは異なっていなければなりません。
- 4) 「メール送信」ボタンをクリックします。
- 5) 制御ユーティリティの制御画面が表示されます。

6.メールからのコマンド

メールからコマンドを実行できます。

メールのタイトルは特に必要ありません。コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。「メールの設定」と「ネットワークの設定」の「共通設定」が必要です。ご確認ください。メールチェック間隔も「メールの設定」画面で設定できますが、メールサーバによってはあまり短い間隔だとエラーになることがあります。ご注意ください

- 1) 本機に設定されたメールアドレスの本文に「LOGIN」と入力し送信します。
「メールの設定」で登録された外部メールアドレスに限りコマンドを受け付けます。
- 2) 本機のメールから ID 番号が送られてきます。
- 3) 本文の最初の行にその ID 番号を入力します。2 行目からコマンドを入力し、送信します。
- 4) 結果が送られてきます。
- 5) 「QUIT」コマンドでログアウトします。
「Q」または「E」の 1 文字だけでもログアウトします。

7.キーファイル

セキュリティのために、キーファイルが使われます。制御ユーティリティで本機に初めてアクセスすると、自動的に固有のキーコードが生成され、本機に設定されると共に、PCの制御ユーティリティと同じフォルダ内にキーファイルが作られます。ファイル名は、RPC4XL.KYF です。これ以後は、このファイルが無いとアクセスできません。他のPCで制御ユーティリティを使う場合は、このファイルもコピーする必要があります。初期設定で、キーコードの変数名は「keyCode」です。キーチェックの変数名は「keyCheck」です。変数「1」(デフォルト)の値を「0」にすると、キーのチェックは行いません。

第7章 シャットダウン

1. シャットダウンについて

この機能により、接続された機器を正常にシャットダウンしてから電源出力を停止できます。シャットダウン機能を利用して、コンピュータの管理や遠隔地からのリモート通信などが容易にできるようになります。

2. 接続

別売のシャットダウン・ケーブル(XH-9609)で、本機とパソコンを接続します。パソコンの電源ケーブルも本機に接続します。シャットダウン I/F 番号とアウトレット番号は合わせてください。

シャットダウン・ケーブル(XH-9609)の信号仕様は、以下の通りです。
イベント発生時に信号は「負」から「正」へ変化します。
電源障害信号：CS 容量低下信号：CD

注意 シャットダウン・ケーブルは本機とパソコン間のシャットダウン以外に使用しないでください。誤った使用をしますと「接続した機器の故障」、「接続した機器の発火」などの原因となることがあります。

3. 本機の設定

Webコントロールプログラムや制御ユーティリティを利用して設定します。
詳しくは P.34「第4章-4.機器設定」、P63「第6章-3.5」機器設定」参照

4. パソコンの設定

シャットダウン信号及び容量低下信号はイベント発生時「正」です。
以下のソフトウェア・サービスにおいて電源障害信号「正」を選択してください。

Windows NT/2000/XP の場合は、標準 UPS サービスを利用します。
Windows 98/ME の場合は、添付ソフト「PT シャットダウン」を利用します。
LINUX の場合は、電源障害信号及び容量低下信号に対応したソフトをご選択ください。

注意 接続されたパソコンのデータは、定期的にバックアップを取ってください。

第 8 章 ロギング機能

1. ログイン機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを 1000 件記録します。1000 件を超えると古いログから消去します。記録されたログは、コマンドで表示できます。

注意 本体電源が切断された場合または本体前面の RESET スイッチが押された場合、ログと記録時間がリセットされます。

1) 設定ユーティリティによる設定

「UPS」タグにあるコマンド送信機能を利用して設定します。

2) TELNET およびターミナルソフトによる設定と表示

記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、コマンドを入力し<Enter>キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

変数はシリアル、TELNET 共通です。値については次項「 ログ制御変数のビット構成」を参照してください。

記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode コマンド : .logMode

表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp コマンド : .logDisp

接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。)

コマンド : LOGDISP

ログ制御変数のビット構成

値は最下位を 0 ビットとし、16 ビットの構成になっています。

0 : 無、1 : 有

ビット		ビット	
15	: モデムログイン・ログアウト	7	: ユーティリティログイン・ログアウト
14	: モデム接続・切断	6	: ユーティリティ接続・切断
13	: TELNET ログイン・ログアウト	5	: 電源障害等
12	: TELNET 接続・切断	4	: 電源制御コマンド
11	: Web ログイン・ログアウト	3	: Trap
10	: Web 接続	2	: ping 監視によるイベント
9	: メールログイン・ログアウト	1	: ping 無応答
8	: メール不正アクセス	0	: ping 送信

TELNET 通信による設定例

- ・ ping 監視によるイベント、電源制御コマンド、電源障害のログを記録する場合

.logMode=0000000000110100 (デフォルト)

- ・ 全て表示する場合

.logDisp=1111111111111111 (デフォルト)

- ・ 接続中に「WEB ログイン」と「接続」だけ表示とする場合

LOGDISP=0000110000000000

ログ表示コマンド

コマンド	内 容
LOG	ログの表示 (連番号順)
LOG n	ログの表示 (最新 n 個)
LOGB	ログの表示 (逆連番号順)
LOGTIME	e = t ログ開始からの経過秒 = 現在時刻 e0 = t0 NTP 接続までの経過秒 = 最初の取得時刻 NTP 無効の場合は e のみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は 20 項目です。

<Enter> キーで続きの 20 項目を表示します。

TELNET など複数同時アクセスはお止めください。

誤動作、誤表示の原因となります。

ログの表示形式

nnn ttt a b xxxxxxxx c

nnn : 連番号
 ttt : NTP 無効時 : 記録開始からの時間
 yy.mm.dd hh:mm:ss : NTP 有効時 : 年月日時分秒
 a : アウトレット番号
 b : PING 送信先番号 (1 ~ 3 番)
 xxxxxxxx : イベント
 c : IP アドレス

記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント (記録・表示のモード設定があります。)	
Ping	ping 送信
No Echo	ping 無応答
監視設定 (Action) に基づくイベント	
No Action	処理なし
Reset	電源リセット
On	電源 ON
Off	電源 OFF
Send Trap	SNMP トラップ送信
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート (電源リセット)
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットのリブート (電源リセット)
アクセスによるイベント	
--> Web	Web アクセス
==> Web	Web ログイン
<== Web	Web ログアウト
--> Uty	ユーティリティ接続
==> Uty	ユーティリティログイン
<== Uty	ユーティリティログアウト (切断)
<-- Uty	ログインしないで切断
MAIL, TELNET, MODEM の接続、ログインなどもこれに準じます	
UPS 連携によるイベント	
Power Trouble	電源障害発生
PowerTrouble Recover	電源障害回復
Battery Low	UPS 容量低下発生
Battery Low Recover	UPS 容量低下回復
PPPoE によるイベント	
PPPoE Connect	接続した。IP アドレスも表示。
PPPoE Disconnect	切断した。
PPPoE Disconnected	切断された。
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IP リンクが開放された
mode に関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー
NTP Server Access Error	NTP サーバー接続エラー。 3 回続けて失敗した場合。
NTP --- hh:mm:ss	NTP サーバー接続

第 9 章
無停電電源装置
(UPS) との連携

1. 本機と無停電電源装置（UPS）の接続

本機とUPSを以下の手順で接続します。

UPS ご利用の際は、シリアル・モデム通信は使用できません。

- 1) UPSと本機とを専用通信ケーブルで接続します。
専用通信ケーブルは弊社もしくは各UPSメーカーにご相談ください。
- 2) 本体前面 DIP スイッチ.1 を ON（下）にします。
- 3) 本機の電源コードをUPSのACアウトレットに接続します。
- 4) UPSの電源出力を開始します。

2. Web ブラウザによる設定

（注：制御ユーティリティから設定する場合も同様です。）

- 1) Web ブラウザから本機にログインします。
- 2) 設定メニュー画面で「UPS設定」をクリックします。
- 3) UPS設定画面が表示されます。

UPS設定画面



4) 各項目を設定します。

UPS 名称

UPS の名称を設定します。半角英数字で最大 20 文字まで指定できます。

UPS モニタ時間間隔

UPS のバッテリー状態、入出力電圧状態などを確認する間隔を設定します。

デフォルト : 10
設定可能値 : 0、10 ~ 60 (秒)
「0」 : 5 秒間隔

シャットダウン開始待機時間 (停電確認時間)

電源障害発生後、電源障害の解消を待つ時間を設定します。設定された時間が経過すると、本機は停電状態と認識し、シャットダウン処理を開始します。設定された時間内に電源障害を検知した場合には、通常状態に戻ります。

デフォルト : 120
設定可能値 : -1 ~ 300 (秒)
「-1」 : 自動でシャットダウンを開始しません。
「0」 : 即座にシャットダウンを開始します。
「1 ~ 300」 : 指定した時間後、シャットダウンを開始します。

【シャットダウン処理】

電源障害信号と容量低下信号を ON します。各アウトレット設定されたシャットダウン遅延時間後に OFF します。

UPS 自動停止 (UPS 出力停止機能)

停電時に、全デバイスのシャットダウン後、UPS の出力停止を自動的に行う機能です。UPS が本機能に対応している場合、過放電を回避するために有効にしてください。

デフォルト : 無効

停電検知レベル	デフォルト	: 正
ローバッテリー検知レベル	デフォルト	: 正
シャットダウン信号レベル	デフォルト	: 正

上記 3 項目の設定は接点式 UPS を接続する場合に必要です。ご利用になる UPS の取扱説明書をよく確認し、設定をしてください。この 3 項目の設定を有効化するには Web 画面上の「設定更新」ボタンのクリック後、必ず本体の RESET スイッチを押してください。

5) 各項目設定後、「設定更新」ボタンをクリックします。

- 6) 設定終了後、Web ブラウザを閉じる場合は必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウト処理をします。

UPS の設定は、設定ユーティリティまたは制御ユーティリティからもできます。

詳しくは P.18 「第 3 章 初期設定」参照

詳しくは P.56 「第 6 章 制御ユーティリティ」参照

第 10 章 システム情報

1. システム情報について

本機に設定された各項目の概要情報を一覧で確認できます。
アクセスする端末により取得できる情報が異なります。下記端末別情報取得項目表を参照してください。

端末別情報取得項目表

情報項目	パソコン		モバイル	i-MODE
	WEB	制御ユーティリティ		
・システムに関する情報				
・ネットワークに関する基本情報				
・アウトレットに関する情報				
・アウトレット監視状況				
・セキュリティに関する情報				
・SNMP に関する情報				
・UPS 管理に関する情報				
・その他の情報				

「アウトレット監視状況」「SNMP に関する情報」はセキュリティ設定が無効または有効で権限レベルが「admin」となっている場合に限りです。

i-MODE にはセキュリティ設定が反映されません。

- 1) Web ブラウザから本機にログインします。
- 2) トップメニュー画面で「システム情報」をクリックします。
システム情報画面が表示されます。

システム情報画面



3) 「システム関連の詳細を表示」ボタンをクリックします。詳細情報の確認ができるのは、セキュリティ設定が無効または有効で権限レベルが「admin」となっている場合に限ります。

詳しくは P.39 「第 4 章-6. セキュリティ設定」参照

アウトレット監視状況の表示について

監視設定の設定内容及び、設定に基づいた判定結果などを表示します。

Judge

監視の判定結果（正常/異常/回復中）を表示します。

- 正常 : 無応答状態が Action を起こす条件に達していない状態
- 異常 : 無応答状態が Action を起こす条件に達している状態
- 回復中 : 無応答状態が Action を起こす条件に達していないものの、いずれかの IP アドレスからの応答が無い状態。

Send

設定された送信回数を表示します。

No Echo Limit

設定された無応答回数を表示します。

Cond

異常と判定された IP アドレスの数を表示します。

Action

設定された Action の内容を表示します。

Action Count

実行された Action の回数を表示します。

Action 設定	表示内容
NoPing	表示なし
noAction	表示なし
Reset	リブート（電源リセット）の回数
powerOn	電源 ON の回数
powerOff	電源 OFF の回数

Last Ping

最新の応答結果を表示します。

No Echo Count

送信回数に対する無応答回数を表示します。

Action 後、最初の応答を受けると「0」になります。

- 4) 確認後、Web ブラウザを閉じる場合は必ず「ログアウト」ボタンをクリックしてログアウト処理します。

第 11 章

SNMP の使用

1. SNMP について

本機はSNMPエージェント機能を装備しています。SNMPマネージャーを利用して、ネットワークシステムの電源管理、電源制御を統合的に行うことができます。

2. MIB について

本機を管理するためのプライベートMIBを準備しています。

付属CD-ROM内 本機-MIB (mibファイル)

プライベートMIBファイルをNMSにロード・コンパイルすることにより、本機及び接続されたUPSの管理をNMS上で行うことができます。

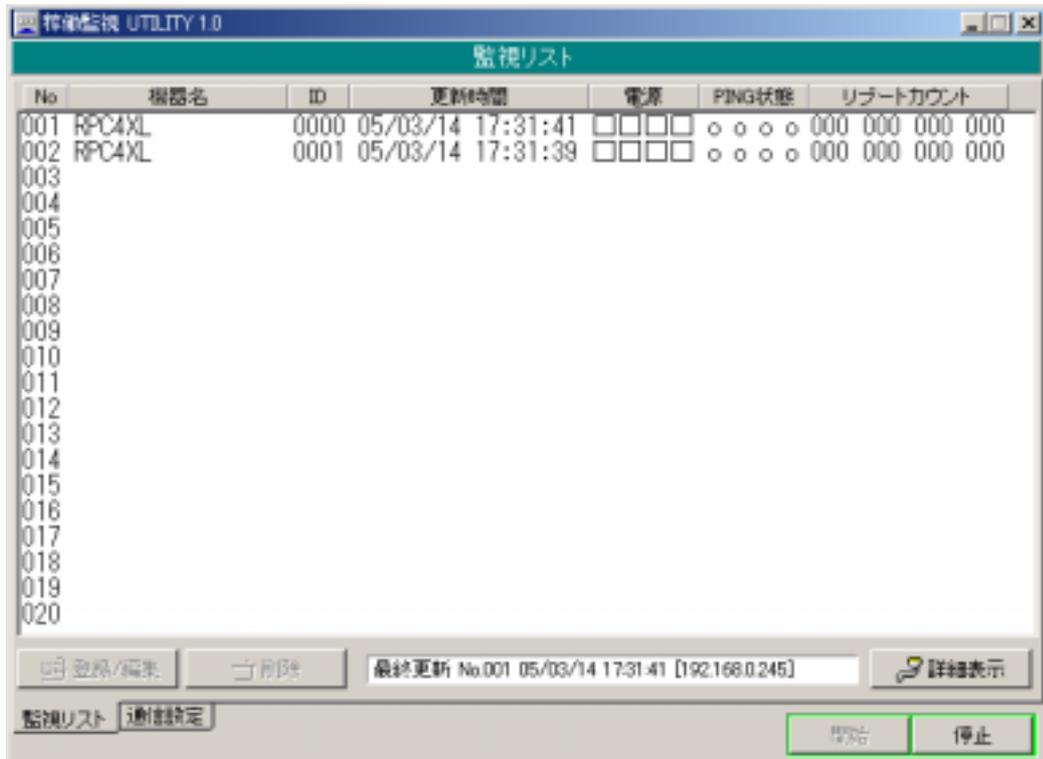
注意 MIBのロード・コンパイル使用方法についての詳細は、ご利用されるNMSのマニュアルを参照してください。

MIBから行えることには制限があります。詳しくは弊社営業までお問合せください。

第 12 章
ネットワーク
稼動監視

2. 使用方法

1) 稼働監視ユーティリティを起動します。(監視リスト画面)



- ID : 各 LAN デブートミニに設定した ID 毎に状態を取得。
ID が重ならないように各 LAN デブートを設定してください。
- 名前 : ID 毎に任意の名前を付ける。
- 更新時間 : 最後にパケットを受け取った時刻を表示。
- 電源 : 電源状態を表示。
ON OFF 左から右へアウトレット 1 から 4
- PING 監視状態 : 監視の判定結果を表示。
OK正常 NG異常 RE回復中 -- 登録無し
- リポートカウント : Action を実行した回数を表示。
左から右へ監視 IP アドレス 1 から 4
- 新規登録 : 新しい LAN デブートミニからの情報を登録。
- 編集 : 設定情報を変更。
- 削除 : 登録を削除。
- 詳細表示 : 選択した LAN デブートミニの詳細情報を表示。
各監視 IP アドレスの状態表示
接続ボタンによる TELNET 接続
直接電源制御できます。

2) 通信設定を行います。(通信設定画面)

受信する UDP のポートを設定。

3) 新規登録 / 編集

ID 番号 : LAN デブートミニに設定した ID を設定。

IP アドレス : センター側から接続する時に使用する

IP アドレスを設定。

ポート : LAN デブートミニ側の TELNET のポート番号を設定。

注意 稼働監視ユーティリティの詳細および最新情報につきましては、
弊社ホームページ[HTTP://meikyo.co.jp](http://meikyo.co.jp)をご覧ください。

3 . プログラムのための情報

以下の情報を送信しています。

- (ア) 電源状態 : XPOS と同じ内容
- (イ) 死活監視状態 : 制御ユーティリティのアウトレット状況と同じ
- (ウ) シャットダウンインタフェース状態 : CS、CD、ER
- (エ) UPS 状態 : CS、CD、ER

```
struct {
    short Command;
    short Bcc;
    short TerminalId;          /* 変数 TerminalId の値 */
    short PacketCounter;
    struct {
        short Status;
        short OnOff;
        short Counter;
    } xpos[4];
    struct OIStatus {
        short Power;
        short Judge;
        short SendCount;
        short NoEchoLimit;
        short Cond;
        short Action;
        short RebootCount;
        short RebootInterval;
        short ActionCount;
        struct {
            short LastPing;
            short NoEchoCount;
        } lpAddr[3];
    } OIStatus[4];
    struct {
        short CS;
        short CD;
        short ER;
    } ShutdownIF[4];
    struct {
        short CS;
        short CD;
        short ER;
    } UpsIF;
} x;
```


第 13 章

PPPoE の使用

1. PPPoE について

本機は PPPoE を搭載しています。通信事業者の PPPoE サーバーに対する、PPPoE クライアントとして、ご利用いただけます。

2. 設定について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下の変数をご用意しています。変数の変更は、コマンドから行います。(26, 27, 53P 参照) また、 の変数は設定ユーティリティのメニューから設定を行えます。

pppMode	1: 常時接続モード 0: コマンド接続モード (初期値 0)
pppUserId	ユーザID
pppPassword	パスワード
pppMyMru	自局側 MRU (初期値 1454)
pppNoReplyInterval	無応答判定時間 (秒、初期値 2)
pppConnectInterval	常時接続リトライ間隔 (秒、初期値 30)
pppReconnectInterval	自動再接続間隔 (秒、初期値 5 : フレッツ仕様では 5 以上)
pppLcpEchoInterval	LCP のエコー送信間隔 (秒、初期値 30)
pppLcpEchoCount	LCP リンク解放までの無応答回数 (初期値 10)
ppplcmpEchoInterval	ICMP のエコー送信間隔 (秒、初期値 0)
ppplcmpEchoCount	IP リンク解放までの無応答回数 (初期値 5)
pppLogMode	1: 接続・解放等のログを記録 0: 記録しない (初期値 1)

3. 制御について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下のコマンドをご用意しています。

PPPCONN	接続動作を開始 pppUserId と pppPassword が設定されていて、かつ初期状態なら動作を開始し Command OK と表示する。そうでなければ Command failed と表示する。
PPPDISC	切断動作を開始 常に Command OK と表示する。初期状態なら何もしない。
PPPSTAT	状態表示 常時接続モードでも、コマンドを使用できる。

4. 動作について

PPPoE 機能ご利用時の動作を説明します。

常時接続モード (pppMode = 1)

- ・立ち上げ時に pppUserId と pppPassword が設定されていれば、自動的に接続動作を開始します。接続が不成功なら pppConnectInterval の間隔でリトライを続けます。
- ・接続後、通信中に切断された場合は、pppReconnectInterval 後に接続をリトライします。
- ・PPPDISC コマンドで切断した場合は、PPPCONN コマンドを実行しない限り接続動作は開始しません。この PPPCONN コマンドによる接続が不成功でも、リトライはしません。

リセット時の動作

- ・接続時に CPU リセット (ウォームスタート) を行うと、自動的に切断します。常時接続モードであれば、その後あらためて接続動作を開始します。

DNS サーバアドレス取得

- ・IPCP 接続手順で取得したアドレスを変数 ipAdDnsServer に自動的に設定します。

LED の表示

- ・ケーブル抜け状態 0.25 秒点灯、0.25 秒消灯
- ・PPPoE 接続、通常状態 2 秒点灯、0.5 秒消灯
- ・PPPoE 接続、障害または復旧中 0.5 秒点灯、0.5 秒消灯
- ・その他の状態 1 秒点灯、1 秒消灯

状態表示

- ・PPPSTAT コマンドでは、フェーズ(p)とサブフェーズ(s)を、p-s として表示します。
例：モデムの電源が入っていないときに接続動作を開始すると、Discovery フェーズで PADO 待ちになる。PPPSTAT 1-1
例：タイムアウトとリトライを繰り返した後、初期フェーズに戻るが、状態表示は次のようになる。PPPSTAT 0,1-1 これは 1-1 の状態で接続が不成功となり、初期フェーズになったことを示します。
- ・1-3 と 3-3 は、状態としては存在しません。PPPSTAT 0,のあとに続く表示としてだけ用いられます。例えば、PPPSTAT 0,3-3 となったら、認証失敗を示します。
- ・接続フェーズでは、等号に続けて IP アドレスも表示します。

各状態の説明

フェーズとサブフェーズの組み合わせで状態が決まります。

フェーズ

- 0: 初期フェーズ
- 1: Discovery フェーズ
- 2: LCP フェーズ
- 3: CHAP フェーズ
- 4: IPCP フェーズ
- 5: 接続フェーズ
- 6: 切断フェーズ

サブフェーズ

各フェーズごとに定義されます。(初期フェーズと切断フェーズには存在しません)

Discovery フェーズ

- 0: 初期
- 1: PADI 送信、PADO 待ち
- 2: PADR 送信、PADS 待ち
- 3: PADS エラー
- 4: リンク確立

LCP フェーズ、IPCP フェーズ

- 0: 初期
- 4: Closing
- 6: Req-Sent Config-Req 送信、Config-Ack 待ち、Config-Req 待ち
- 7: Ack-Rcvd Config-Req 送信、Config-Ack 受信、Config-Req 待ち
- 8: Ack-Sent Config-Req 送信、Config-Req 受信、Config-Ack 送信、Config-Ack 待ち
- 9: リンク確立

CHAP フェーズ

- 0: 初期
- 1: Challenge 待ち
- 2: Result 待ち
- 3: エラー-Result
- 4: OK

接続フェーズ

- 0: 通常
- 1: 障害
- 2: 復旧中

モデム・回線の監視

モデムには、以下の状態があります。

- ・ノットレディ 電源オフ、または投入直後
- ・初期
- ・接続
- ・IP リンク解放

モデムは通常は、初期状態か接続状態にありますが、接続状態中に、通信ができなくなることがあります。この場合は、接続手順を行って再接続を行います。

また、接続状態中にモデムの電源をオフにし、再度オンにすると、接続状態に戻るときと初期状態になるときとがあります。(オフの時間が長いと初期状態になります)

無応答判定

無応答判定時間[変数 pppNoReplyInterval]は、以下の場合に適用します。

- ・PADI に対する PADO 待ち
- ・PADR に対する PADS 待ち
- ・LCP|CPC で Config-Req に対する Config-Ack,Config-Nak 待ち
- ・LCP|CPC で Config-Req 待ち
- ・LCP|CPC で Term-Req に対する Term-Ack 待ち
- ・LCP で Echo-Req に対する Echo-Reply 待ち
- ・CHAP チャレンジ待ち
- ・CHAP リザルト待ち

接続中は、pppLcpEchoInterval の間隔で LCP エコー要求を送って、ノットレディでないか監視しています。pppNoReplyInterval 以内に応答が無いとその時点で再び送信します。無応答が pppLcpEchoCount の回数に達するとノットレディと見なします。ノットレディと見なすと、接続手順を開始できるか(レディになったか)をチェックします。接続手順を開始できるようになったとき(具体的には PADI に PADO が返ってきたとき) あらためて LCP エコー要求を送る。応答があれば、接続状態に戻ったと見なします。応答が無ければ、接続手順を開始し、再接続します。(ただし常時接続モードでなければ、再接続はしません)

接続中に、ppplcmpEchoInterval の間隔で ICMP エコー要求を送って、IP リンクが解放されていないか監視できます。無応答が ppplcmpEchoCount の回数に達すると、IP リンク解放と見なし、常時接続モードなら再接続を行います。初期値は ppplcmpEchoInterval が 0 ですので、ICMP エコー要求は送りません。

LCP エコーと ICMP エコーを除いては、リトライ回数は 3 になっています。

ログ記録

変数 pppLogMode=1 の場合は、以下のものがログに記録されます。

PPPoE Connect	接続した。IP アドレスも表示
PPPoE Disconnect	切断した
PPPoE Disconnected	切断された
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IP リンクが解放された

第 14 章
仕様一覧

変数一覧表

変数名	変数の説明	デフォルト
uPassword1	制御ユーティリティのパスワード (1) 権限 高 (P57 参照)	"magic"
uPassword2	制御ユーティリティのパスワード (2) 権限 中 (P57 参照)	"magic"
uPassword3	制御ユーティリティのパスワード (3) 権限 低 (P57 参照)	"magic"
iPassword	iPassword iモードのパスワード	"0000"
serialNo	未使用 (serialNo)	" "
keyCode	制御ユーティリティ用 キーコード	" "
keyCheck	キーチェック (0:チェックしない 1:する)	1
extPassword	未使用	" "
sysServices	未使用	64
sysOemNumber	未使用	0
ifNumber	未使用	1
ifIndex	未使用	1
IfType	未使用	6
ifSpeed	未使用	10000000
ifOutQLen	未使用	0
ipAdEntBcastAddr	未使用	1
setCommunity	SNMP SET コミュニティ名	"public"
getCommunity	SNMP GET コミュニティ名	"public"
trapCommunity	SNMP TRAP コミュニティ名	"public"
IfMtu	未使用	1500
ifAdminStatus	未使用	1
ifOperStatus	未使用	1
ipForwarding	未使用	2
ipDefaultTTL	未使用	32
ipReasmTimeout	未使用	30
ipAdEntAddr	I Pアドレス	192.168.10.1
IpAdEntNetMask	ネットマスク	255.255.255.0
ipAdEntReasmMaxSize	未使用	1500
IpRouteDest	デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
ipRouteMask	未使用	0.0.0.0
ipNetToMediaType	未使用	3
xupsTrapEntAddr	T R A P送信先、 カンマ区切りで 8 アドレスまで	0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0, .0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
xupsTrapMaxCount	T R A P送信回数	1,1,1,1,1,1,1,1
xupsSecurityEntAddr	セキュリティ用 I Pアドレス。 カンマ区切りで 8 アドレスまで	-
netArpEntry	未使用	8
netBootpRetry	B O O T Pリトライ回数	0
netRarpRetry	R A R Pリトライ回数	0
netUdpEntry	未使用	8
netTcpTimeout	T C Pタイムアウト(秒)	6000
snmpEnabled	S N M Pの有効化 (0:無効 1:有効)	0
telnetEnabled	T E L N E Tの有効化 (0:無効 1:有効)	1
telnetPort	T E L N E Tのポート番号	23
utilityPort	制御ユーティリティのポート番号	9000
loadPort	F Wロードプログラムのポート番号	9100
userLoginTimeout	ログインタイムアウト時間 (秒)	600

debOlRebootCount	再起動回数	1,1,1,1
debOlRebootInterval	再起動間隔(分)	1,1,1,1
debOlNoEchoInterval	監視設定画面の無応答検出時間(秒)	5
debOlPingInterval	アウトレットの ping 送信間隔(分)	1
pingInterval2	アウトレット毎の ping 送信間隔変更(分) (4個)0の場合は上段の値となる。	
debOlName	アウトレット名	"Outlet1,Outlet2 Outlet3,Outlet4"
schEnabled	スケジュールの有効化(20個)1:有効	
SchDay	スケジュール曜日(20個) 毎日:空 月:1 火:2 水:3 木:4 金:5 土:6 日:7	
schHour	スケジュール時間(20個)	
schMinute	スケジュール分(20個)	
schOutletNo	スケジュールアウトレット(20個) 全:空 1:1 2:2 3:3 4:4	
SchAction	スケジュールアクション(20個) NoAction:0 Reset:1 powerOn:2 powerOff:3	
ipAdDnsServer (旧 NameServerAddr)	ネットワークの設定画面のネームサーバアドレス(変数名が変わりました。)	0.0.0.0
MailUserName	メール名設定	" "
MailPassword	メールパスワード設定	" "
MailAddr	メールアドレス設定	" "
MailPopServer	POP 設定	" "
mailSmtServer	SMTP 設定	" "
extMailAddr1	送信先アドレス 1	" "
extMailAddr2	送信先アドレス 2	" "
extMailAddr3	送信先アドレス 3	" "
extMailAddr4	送信先アドレス 4	" "
extMailAddr5	送信先アドレス 5	" "
extMailAddr6	送信先アドレス 6	" "
extMailAddr7	送信先アドレス 7	" "
extMailAddr8	送信先アドレス 8	" "
MailInfoFlag	メール情報フラグ(メール送信有効化)4桁	-
mailCommandEnabled	メールコマンド有効化(0:無効 1:有効)	0
mailLogoutTime	メールログアウト時間(分)	10
mailCheckInterval	メールチェック間隔(分)	3
mailApopEnabled	APOPの有効化(0:無効 1:有効)	0
PollingPcAddr1	ポーリング PC IPアドレス	" "
PollingPcAddr2	ポーリング PC IPアドレス	" "
PollingPcAddr3	ポーリング PC IPアドレス	" "
PollingPcAddr4	ポーリング PC IPアドレス	" "
PollingPcAddr5	ポーリング PC IPアドレス	" "
PollingPcAddr6	ポーリング PC IPアドレス	" "
PollingPcAddr7	ポーリング PC IPアドレス	" "
PollingPcAddr8	ポーリング PC IPアドレス	" "
PollingPcPort	ポーリング PC ポート	-
PollingDeviceNo	未使用	0
PollingEnabled	ポーリング有効化(0:無効 1:有効)	0
CallbackEnabled	コールバック有効化(0:無効 1:有効)	0
PromptMode	TELNET プロンプトモード	2
ImodeEnabled	i モード(0:禁止、1:許可)	0
ModemEnabled	モデム(0:禁止、1:許可)	0
ModemTimeout	モデムタイムアウト時間(分)	10

LogMode	ログ記録モード (16 ビット)	0000 0000 0011 0100
LogDisp	ログ表示モード (16 ビット)	1111 1111 1111 1111
mailLogCount	メールで送信するログの数 0 : 無効 最大値 20	0
mailLogDisp	メール送信するログモード (16 ビット)	1111 1111 1111 1111
ipAdNtpServer	NTP サーバーのアドレス	0.0.0.0
ipAdCenter	監視情報送信先のアドレス	0.0.0.0
CenterPort	監視情報送信先のポート番号	5000
TerminalId	監視情報につける機器の ID	0
CenterSendTimer	監視情報送信間隔 (秒)	300
CenterChangeSendTimer	状態変化時に監視情報を連続して送信する ときの送信間隔 (100 ミリ秒)	10
CenterChangeSendCount	状態変化時に監視情報を送信する回数	3
MyMode	シリアルモード 0 : 標準 1 : 日本ラリタン・コンピュータ社向 1	0
confirmEnabled	MyMode = 1 の時にのみ利用 1	0
statusEnabled	MyMode = 1 の時にのみ利用 1	1
ipAdTelnetT	TELNET による接続後、中継機能により TELNET でアクセスする機器の IP アドレス	0.0.0.0
ipAdTelnetU	制御ユーティリティによる接続後、中継機能によ り TELNET でアクセスする機器の IP アドレス	0.0.0.0
remoteTelnetPortT	TELNET による接続後、中継機能により TELNET でアクセスする機器のポート	23
remoteTelnetPortU	制御ユーティリティによる接続後、中継機能によ り TELNET でアクセスする機器のポート	23
discChar	中継機能利用中に通信を切断する 1 文字	“ ”
pppMode	PPPoE 常時接続モード (0 : 無効、1 : 有効)	0
pppUserId	PPPoE ユーザー ID	“ ”
pppPassword	PPPoE パスワード	“ ”
pppMyMru	自局側 MRU	1454
pppNoReplyInterval	無応答判定時間 (秒)	2
pppConnectInterval	常時接続リトライ間隔 (秒)	30
pppReconnectInterval	自動再接続間隔 (秒)	5
pppLcpEchoInterval	LCP のエコー送信間隔 (秒)	30
pppLcpEchoCount	LCP リンク解放までの無応答回数	10
pppIcmpEchoInterval	ICMP のエコー送信間隔 (秒)	0
pppIcmpEchoCount	IP リンク解放までの無応答回数	5
pppLogMode	接続・解放等のログを記録	1

1 日本ラリタン・コンピュータ社製品との連携について。

「MyMode=1」と設定しますと、日本ラリタン・コンピュータ向けFWとして動作するようになります。
KSXなどの電源制御用GUIにより制御することが可能になります。(最新情報は<http://www.raritan.co.jp>まで)
シリアルからの通常のコマンドは使用できなくなります。

仕様詳細：

シリアル通信/パラメーターが固定となります。：9600bps、8ビット、パリティ無

立ち上げ時にはコマンドは受け付けず、CRコード入力で、コマンドを受け付けるようになります。

コマンド一覧

On

Off

Reboot

Status 電源状態表示

Config 構成モード

Logout ログオフ

Logoff ログオフ

Exit ログオフ

Unitid Unit ID (機器名) を表示

Help コマンドリストを表示

On コマンド形式 (Off コマンド、Reboot コマンドも同様)

On 全アウトレットをオン

On n アウトレット n をオン (n=0 なら全アウトレット)

On all 全アウトレットをオン

Config コマンドでは、以下のように表示されますので、実行するものを選択します。

1)..Manage Users

2)..Change Outlet Name

3)..Enable/Disable Confirmation

4)..Enable/Disable Status Menu

5)..Change Unit ID

6)..Change Alarm Threshold

X)..Exit

ただし、1)と6)は、実際には実行されません。

2)は英数20文字まで、5)は英数19文字まで入力できます。

Enable/Disable Confirmation では、On/Off/Reboot 実行のときに確認するかどうかを指定します。

(変数 confirmEnabled に設定される。初期値 0:Disable)

Enable/Disable Status Menu では、プロンプトのたびに状態を表示するかどうかを指定します。

(変数 statusEnabled に設定される。初期値 1:Enable)

注：Dominion KSX で使用するときには、Enable Status Menu にしておく必要があります。

対応機種など詳しくは<http://www.raritan.co.jp>をご覧ください。

UPS レベルビット構造表

変数 : 「upsSignalLevel」

制御フラグ (4 bit)			

0 : 負 1 : 正

停電検知レベル	デフォルト : 正
ローバッテリー検知レベル	デフォルト : 正
未使用 (1 : 固定)	
シャットダウン信号レベル	デフォルト : 正

以下は設定例です。

例-1)	停電検知レベル	「正」	
	ローバッテリー検知レベル	「正」	
	未使用 (1 : 固定)		
	シャットダウン信号レベル	「正」	設定値 : 15 (デフォルト)
例-2)	停電検知レベル	「正」	
	ローバッテリー検知レベル	「負」	
	未使用 (1 : 固定)		
	シャットダウン信号レベル	「正」	設定値 : 13

仕様一覧表

通信仕様	LAN通信仕様		ARP、TCP/IP、DUP/IP、ICMP、HTTP、MD5、SNMP、BOOTP、DHCP、FTP、TELNET、SMTP、POP、NTP、PPPoE	
	LAN制御方法	SNMPマネージャー、TELNET		
		Web (i-MODEに対応)		
		TCP/IPユーティリティ		
		E-mail		
機能	電源制御 / 管理		電源ON	
			電源OFF	
			リポート	
			電源状態取得	
	タイマー		週間 (20個)	
	遅延時間設定		電源ON遅延時間	
			電源OFF遅延時間 (シャットダウン時間)	
			リポート時間	
	UPS連携		停電時連動機能	
	シャットダウン機能		電源障害信号出力	
状態監視		Ping送信		
		通報機能 : SNMPトラップ		
		自動電源制御		
WOL対応機能		あり : MAGIC PACKET送信		
ハード仕様	インターフェース		10Base-T x 1 (IEEE 802.3に準拠)	
			RS-232C x 1 (Dsub9ピンオス)	
			RJ11 x 4 (シャットダウンインターフェース)	
	定 格	最大制御出力		100V AC 15A (1500W)
		消費電力		最大 5.8W
		入力電源電圧		AC100V ± 10% (50/60Hz)
	使用環境		温度 5 ~ 40	
			湿度 20 ~ 85% (ただし結露なきこと)	
外形寸法		220(W) x 45(H) x 170(D)mm		
重量		1.8 kg		
安全規格		特定電気用品認証品 (電気用品安全法)		

タイムチャート

- 接点式 UPS 利用時
- ・ UPS 自動停止無効
 - ・ DIP スイッチ.1 のみ ON
 - ・ PowerON=0(s)

T1 : UPS モニタ時間間隔

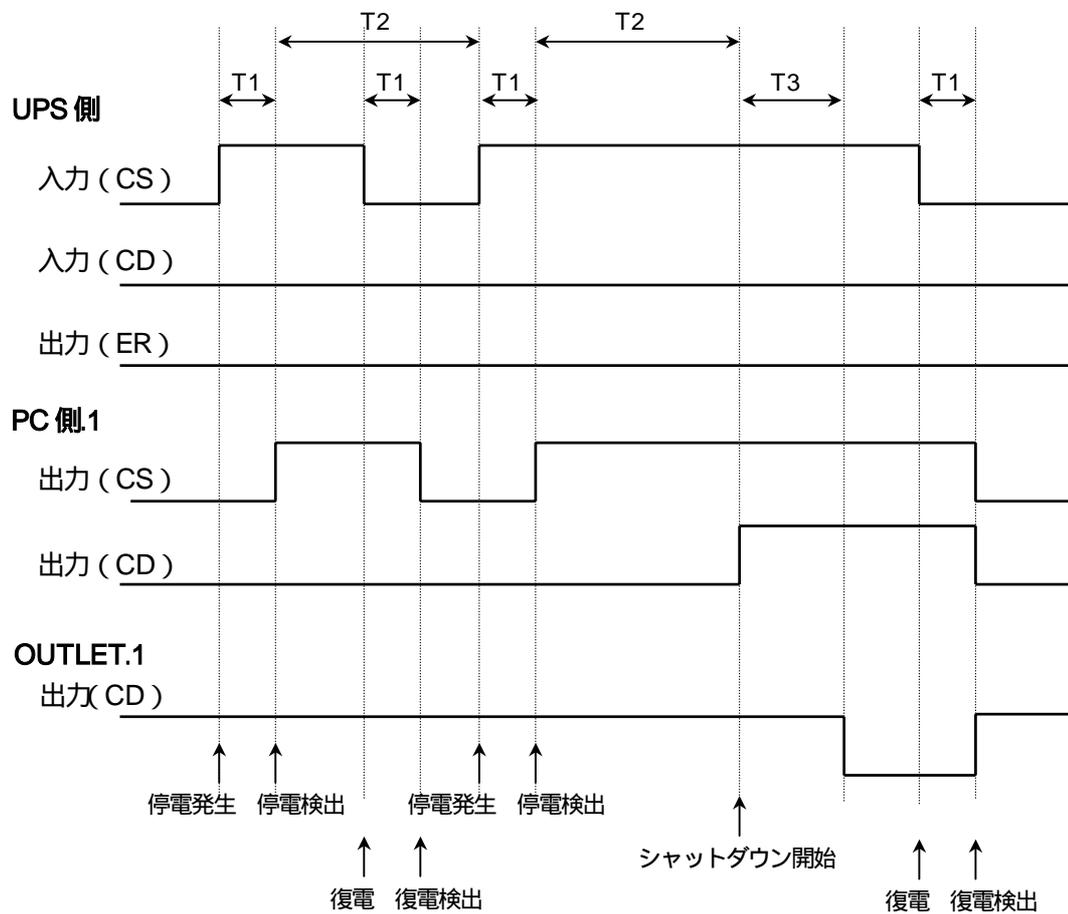
デフォルト : 10 秒 設定可能値 : 0、10 ~ 60

T2 : シャットダウン開始待機時間 (停電確認時間)

デフォルト : 120 秒 設定可能値 : -1 ~ 300

T3 : Shut down (シャットダウン遅延時間)

デフォルト : 30 秒 設定可能値 : 0 ~ 3600



CS : 電源障害信号

CD : 容量低下信号

状態遷移表

状態		1		2		3		4		5		6		備考
電源状態		ON		ON		ON		OFF		OFF		OFF		
ON time	OFF time	無	無	有	無	無	有	無	無	有	無	無	有	
MPON		OK		Failed		Failed		OK		Failed		Failed		他のアウトレットが処理中の場合も不可
		2		-		-		5		-		-		
MPOF		OK		Failed		Failed		OK		Failed		Failed		他のアウトレットが処理中の場合も不可
		3		-		-		6		-		-		
MPOR		OK		Failed		Failed		OK		Failed		Failed		他のアウトレットが処理中の場合も不可
		5		-		-		5		-		-		
PON		OK		Failed		Failed		OK		OK		OK		
		-		-		-		1		1		3		
POF		OK		Failed		OK		OK		Failed		Failed		
		3		-		備考 2		-		-		-		
POR		OK		OK		OK		OK		OK		OK		
		5		5		5		5		備考 2		5		
備考 1				TIME UP で 「1」へ		TIME UP で 「4」へ				TIME UP で 「1」へ		TIME UP で 「1」へ		
備考 2						OFFtime リスタート				On time RESET time				

Failed : Last command is pending. Command Failed

ご注意

- (1) 本書及び製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。
- (2) 本書及び製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書及び製品の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社及び弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

Windows95、Windows98、WindowsME、WindowsNT、Windows2000、WindowsXP は Microsoft Corporation の登録商標です。
「iモード」及び「i-mode」ロゴはNTTドコモの商標または登録商標です。
その他、記載の会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。

LAN・デ・ブート ミニ R P C - 4 X L
取扱説明書 第 2.0 版
版權所有 明京電機株式会社 2005 年 3 月

明京電機株式会社

〒116-0012 東京都荒川区東尾久 4-27-2
TEL (03)3810-5580 FAX (03)3810-5546
URL : <http://www.meikyo.co.jp>
E-mail: info@meikyo.co.jp
